

平成 25 年度
東京大学附属図書館自己点検評価報告書
(平成 19 年度～24 年度)

平成 26 年 3 月
東京大学附属図書館

目 次

はじめに：自己点検評価の基本的視点	1
第1部 これまでの経緯	3
1 附属図書館の組織原理の変遷	3
2 附属図書館のミッション	5
3 これまでの目標設定と報告	5
第2部 附属図書館の活動：平成19年度から24年度の概況	8
1 学習支援機能：学習環境の整備	8
1.1 開館時間	
1.2 利用状況	
1.3 学習用図書 of 整備	
1.4 資料の取り寄せ	
1.5 レファレンスサービス	
1.6 情報リテラシー教育	
1.7 その他	
2 研究支援機能：学術情報基盤の整備	16
2.1 全学共通経費による基盤的学術雑誌などの整備	
2.2 大型コレクション	
2.3 電子リソースの整備	
3 保存・情報発信機能：資料の保存と研究成果の発信	17
3.1 蔵書・コレクション	
3.2 所蔵資料の電子化	
3.3 目録データの遡及入力事業	
3.4 雑誌移管（自然科学系学術雑誌バックナンバーセンター機能）	
3.5 機関リポジトリ	
4 社会貢献・社会連携	21
4.1 オープンキャンパス，一般公開	
4.2 催し物	
4.3 友の会	
4.4 他の大学図書館との連携・協力	

5 組織・運営	23
5.1 組織と職員	
5.2 予算・経費	
5.3 全学資料購入集中処理	
5.4 図書資産の実査	
5.5 施設の整備	
6 利用者アンケート	26
6.1 利用者アンケートの概要	
6.2 アンケート結果	
第3部 附属図書館の評価	32
1 学習支援機能	32
2 研究支援機能	33
3 保存・情報発信機能	35
4 社会貢献・社会連携	36
5 組織・運営	37
第4部 まとめと今後の課題	39
第5部 資料編	42
1 自己点検評価実施委員会委員	42
2 用語解説	43
3 利用者アンケート結果報告	47
4 基礎統計	63

はじめに：自己点検評価の基本的視点

平成 19(2007)～24(2012)年度の附属図書館の活動は、全学レベルでは、(1)平成 15(2003)年度に制定された「附属図書館基本規則」にうたわれた「共働する一つのシステム」としての附属図書館のあり方の実体化、(2)本郷、駒場、柏のキャンパス拠点図書館の学習図書館機能強化、(3)電子ジャーナルをはじめとする基盤的学術情報整備のための全学共通経費システムの構築、(4)学術機関リポジトリの発展をはじめとする東京大学の学術情報のデジタル化とその発信、(5)図書収蔵スペースの狭隘化を解決するとともに、図書館機能の高度化をはかるための総合図書館の大規模改修、(6)図書館の果たすべき役割を再定義するとともにその責任を自覚し、他部局とも協力して「総合情報システム」を構想するなど、全学的な知識基盤整備での能動的役割の発揮、(7)21 世紀にふさわしい図書館職員の高度専門職の担い手としてのあり方の提示、(8)電子ジャーナルの大手出版社に対する大学の交渉力を強化するための国公立大学にまたがるコンソーシアム結成に、国立大学図書館協会を通じての主導的役割の発揮、などを重点課題としてきた。

この間の主な達成としては、①全学共通経費制度が、平成 19(2007)年度から発足し、平成 24(2012)年度からは、第二期に入って、電子ジャーナル・冊子体学術誌などの基盤的学術情報を確保しているが、これは附属図書館が「共働する一つのシステム」としてある程度は機能するようになったことの証左でもある、②平成 20(2008)年度から従来総長裁量経費で措置されていた学習用図書費が恒常的に配分されるようになり、また留学生用図書にも予算措置が得られるなどして、図書予算削減にもかかわらず、キャンパス拠点図書館での学習用図書の充実がはかられた、③平成 23(2011)年度から国公立大学をメンバーとする大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)が発足したが、東京大学は人員の派遣をはじめそれに大きな貢献をしている、④自然科学系学術雑誌バックナンバーを全学の図書館室から柏図書館に集中化することにより、図書収蔵スペースの狭隘化を改善した、⑤総合図書館の大規模な増築・改修を内容とする新図書館構想に学内合意が形成され、新館部分には国の予算も措置された、⑥図書行政商議会が、依然多くの問題を持ちつつも、部局図書館室の利害を主張するのではなく、全学的見地から図書行政の重要事項を決定する場として機能しつつある、などをあげることが可能であろう。

しかしながら、「共働する一つのシステム」の構築は、全体として見れば緒に就いたばかりであり、上記の成果も、図書館の内部での達成という面が強く、図書館の存在意義を提示してその果たすべき役割を拡大させ、全学的な知識基盤整備における図書館の能動的役割を發揮していくという課題に関しては、その多くが未達成であり、実現は現在進行中の新図書館構想に託されている。こうした事態は、図書館を超えた大学全体の動向にも影響されているが、図書館としては、そのガバナンスのあり方を含め、厳しくその原因を見つめる必要がある問題である。また、大学教育の大きな質的転換の中で比重を増している学生のアクティブ・ラーニングを支援していく課題に

関しても、従来の学習図書館的発想を大きく超えた取り組みはまだできていない。こうした反省的自己評価こそが、新図書館計画の実施の過程でこれまで達成できなかった懸案を実現していく基礎となろう。

また、東京大学附属図書館は、平成 17(2005)年度に制定された「附属図書館憲章」が、「わが国における学知の収集、保存及び発信の中心の一つとして、全国の学術研究基盤の充実に貢献し、更に国際的な連携・協力のセンターとして、世界の学術機関との学術情報交換を行うことにより、世界の学術コミュニティに奉仕する」としているが、こうした全国的、世界的視野も、自己点検に不可欠の視座である。

第1部 これまでの経緯

はじめに、自己点検評価の報告をするにあたって、東京大学附属図書館に独特な組織原理の変遷を概観する。さらに、自己点検評価の原点となる附属図書館のミッションについて触れた後、これまでの目標設定と報告などについて主だったものを簡単に説明する。

1 附属図書館の組織原理の変遷

【岸本改革以前】

昭和 36(1961)年にはじまった東京大学附属図書館改善計画(いわゆる「岸本改革」)によって、東京大学附属図書館の機能の高度化が実現し、現在のあり方につながる基本的な組織の構造が確立された。岸本改革は、東京大学における図書館の位置づけや意義にとって画期的なものであった。

岸本改革以前においては、総合図書館と部局図書館室は、図書館という名称こそ共有していたが、組織上は何らのつながりはなく、相互の連携もほとんどないままであった。部局の図書館室は、それぞれが所属する部局における教育・研究のために部局が整備し、独自に運営されており、東京大学の図書館としての全体的・有機的な連携は十分ではなかった。「国立学校設置法」で規定されていた附属図書館は、本館(現在の総合図書館)を意味し、部局に設置された図書館室はその範囲外であった。

【岸本改革の意義＝「連絡調整された分散主義」】

岸本改革によって、東京大学附属図書館は、高度な大学図書館としての機能を提供しうる組織体制に生まれ変わった。岸本館長の「大学図書館の役割りは、ただ、大学の図書を所蔵しておくだけではなくて、図書を活用させるはたらきそのものこそ、その使命である」という言葉にある通り、学生に図書館サービスを提供するために抜本的な機構改革が行われた。具体的には、学内の図書館間の協力を推進するために定期的な連絡調整の場が設けられたり、全学の図書が検索できるように総合目録(カード目録)が作成されたり、図書館全体の広報誌「図書館の窓」が創刊されたりした。また、「本館」を「総合図書館」と改称し、本学における「附属図書館」を総合図書館と部局図書館室とから構成される総称としたのも岸本改革のもとであった。

岸本改革によって成し遂げられたことは、そのほかにも総合図書館の改修をはじめとして多岐にわたるが、最も大きな意義は「連絡調整された分散主義」という組織原理を確立したことであった。この原理にそって、東京大学においては、中央の図書館が学内の図書館組織を一元的に管理・運営するのではなく、それぞれの図書館室が所属する部局の方針や特色にもとづいて図書館サービスを提供しながらも、有機的な連絡調整を行い、全体としてサービス体制を最適化して

いく体制が整えられた。それ以後 40 年以上にわたり安定的に図書館活動が発展していったのも、この組織原理が有効であったことの証しといえるだろう。

【図書館システムと「共働する一つのシステム」】

図書館業務が電算化されて、インターネット上でさまざまな情報がやりとりされるようになると図書館の役割やサービスのあり方が変化し、これまでの「連絡調整された分散主義」による運営の限界が見えてきた。附属図書館の電算化システムが稼働したのは昭和 61(1986)年であったが、それを機に図書館の業務のなかで、共同で処理し、共通するルールにのっとって行われる仕事が増加した。たとえば、目録業務は、それまで各自でカード目録を作成していたものが、全国レベルで書誌を共有するオンラインの目録所在情報サービスに登録するようになった。また、貸出業務や ILL などの相互利用業務もオンラインのシステム上で行われるようになってきた。

また、資料の電子化が進化したことも分散から共働への移行の要因となった。インターネットの普及にともなって、図書館が扱ってきた図書や雑誌などの資料は電子化が急速に進み、特に外国雑誌については電子ジャーナルのタイトル数が冊子体を大きく上回るようになった。このように、各図書館室でモノとして管理・登録する冊子体の資料ではなく、大学全体でシェアできる電子資料が増えてきたことにより、これまでのような分散主義では電子化に即した新しい情報サービスの提供ができなくなってきた。資料の性質や特徴が大きく変わったことにより、それを提供する図書館組織のありようも変わらざるを得なかったのである。

以上のように、図書館における業務と資料双方の電子化が、図書館の新たな組織原理である「共働する一つのシステム」化の起因となり、図書館サービスが分散から統一へと向かう大きな流れが形成された。

【キャンパス拠点図書館と部局図書館】

現時点での附属図書館の組織は、「共働する一つのシステム」の原理のもとに、キャンパス拠点図書館と部局図書館室とから構成されている。キャンパス拠点図書館は、本郷キャンパスの総合図書館、駒場キャンパスの駒場図書館及び柏キャンパスの柏図書館の3館からなり、「各キャンパスにおける学習支援機能の中心的な担い手となる」ことが求められている。一方で、部局図書館室は、「本学における研究を支援するとともに、各部局の特性に応じて学習支援機能をも担う」とされている(「東京大学図書館憲章」による)。キャンパス拠点図書館は学習支援を、部局図書館は研究支援を主に担当することで機能的な役割分担がなされており、附属図書館全体として機能的な統一化がより一層進展しているといえる。

なお、3キャンパス拠点図書館と「共働する一つのシステム」については、平成 16(2004)年 3 月に制定された「東京大学附属図書館基本規則」に明記されている。

2 附属図書館のミッション

【東京大学憲章】

平成 15(2003)年 3 月に制定された「東京大学憲章」では、附属図書館は学術情報を提供・発信する組織として位置づけられている。同憲章中の III. 運営の「18. 学術情報と情報公開」で、図書館については、次のように記されている。

東京大学は、図書館などの情報関連施設を全学的視点で整備し、教育・研究活動に必要な学術情報を体系的に収集、保存、整理し、構成員に対して、その必要に応じた適正な配慮の下に、等しく情報の利用手段を保障し、また広く社会に発信することに努める。

【東京大学図書館憲章】

これを受けて平成 17(2005)年度に、附属図書館において「附属図書館のミッション」について審議が重ねられた結果、図書行政商議会の承認を得た上で「東京大学図書館憲章」が制定された。

憲章は前文と五つの項目からなっている。前文では、附属図書館を、「学習、教育及び研究のために不可欠な全学組織として」位置づけ、大学及び国内外の「学術情報基盤の充実に貢献」することを役割としており、五つの項目はそれぞれ次のようなミッションをうたっている。

1. キャンパス拠点図書館と部局図書館の役割
2. 学術情報の収集・保存と次世代への継承
3. 学生に対する学習及び教養習得のための支援
4. 学術情報を有効に活用しうる専門的能力の向上及び情報システムの高度化
5. 学術情報と専門的知識の国内外への発信

この憲章は、附属図書館の活動や役割を評価する上で、つねに参照すべき原点にあたるものである。

3 これまでの目標設定と報告

今回の自己点検評価はおおよそ 20 年ぶりに行われたもので、前回の自己点検にあたるものは、平成 6(1994)年 3 月にまとめられた「東京大学附属図書館報告－ひろがりをつながり－」になる。それから現在までのあいだには、中長期的な視点から附属図書館の目標を設定した「東京大学附属図書館中期目標・中期計画」(平成 15(2003)年 2 月)があり、本自己点検評価の基本資料と

なった各年度の「附属図書館活動報告書」及び「各図書館(室)年次報告」には、附属図書館の活動状況や特記すべき事項が年度ごとにまとめられている。以下、それぞれの概要について記すことで、今回の自己点検評価の位置づけを明確にする一助としたい。

「東京大学附属図書館報告－ひろがりとつながり－」

この報告がまとめられた平成5(1993)年度は、前述の組織原理でいうと「連絡調整された分散主義」から「共働する一つのシステム」に変遷していく過渡期にあたる。全57ページからなる本報告は、総合図書館と各部局に所属する図書館室が行っている活動の多様性(「ひろがり」と相互の連携協力(「つながり」)の二つを着目点にして、本学の図書館活動をサービスの現状から描いている。図書館業務の電算化とネットワークの普及という状況下にあつて、大学図書館の役割は、地球規模の「ひろがり」として展開していき、そのなかで「つながり」が確保されると、また「ひろがり」も拡大していくという相互循環的な展開になるという本報告の予想はまさに的を得ているといえよう。この報告から20年を経て今日の附属図書館はより多様性を増し、相互の連携・協力体制が強化されている。なお、同時期に図書行政商議会では、「東京大学附属図書館の将来像－今後の方策について－(最終報告)」がとりまとめられており、本報告と対をなしている。

「東京大学附属図書館中期目標・中期計画」

国立大学法人化にあつて、全学の部局で中期期間の目標と計画をそれぞれ策定されたが、これは附属図書館の中期目標・中期計画として、平成15(2003)年2月に図書行政商議会で審議されてまとめられたものである。そのなかでは、17ページにわたって附属図書館が目標とすべき事項と実現のための計画が、9つの項目別に記されている。各項目は、附属図書館の理念にはじまって、システムの改革、フロンティアメディアセンターの整備、支援・サービス機能の展開、研究教育機能の開発、図書館職員、自己改革、スペース問題、男女共同参画と多岐にわたっている。

図書館憲章の策定、柏図書館の発足、基盤的学術情報整備のための全学共通経費制度の創設、図書行政商議会の改組など、この間の附属図書館の改革は、基本的にこの中期目標・中期計画にそつたものだった。しかし、「共働する一つのシステム」として附属図書館の統合性を高め、学内における図書館の地位を向上させて、全学的な「総合情報システム」の構築をめざすという中期目標・中期計画の意欲的な目標の多くは未達成で、現在進行中の新図書館計画にその実現が託されている。こうした事態は、図書館を超えた大学全体の動向にも影響されているが、図書館としては厳しくその原因を見つめる必要がある問題である。こうした反省的自己評価こそが、新図書館計画でこうした目標の実現をはかる基礎となろう。

「附属図書館活動報告書」と「各図書館(室)年次報告」

「附属図書館活動報告書」は、国立大学法人化1年目の平成16(2004)年度から毎年発行されている。附属図書館におけるその年度の特記事項(規程の改正や制度の新設など)、サービス、

資料の収集・整理, 設備の整備や広報・展示などの項目に分けて, 図書館活動の経年的な変化を追うことができるような構成になっている。近年では, 研究成果の発信という項目が新たに加わっており, これは図書館活動の新たな展開を示している。また, 「附属図書館活動報告書」が全学的なシステムとしての附属図書館全体の活動報告であるのに対して, 「各図書館(室)年次報告」は部局の図書館室の特徴的な活動についてまとめたものになっており, 両者をあわせ読むことで, 東京大学附属図書館の活動をより立体的に把握することができる。

第2部 附属図書館の活動：平成19年度から24年度の概況

第2部では、評価対象期間(平成19(2007)～24(2012)年度)における附属図書館の活動を、各年度の「附属図書館活動報告書」と「各図書館(室)年次報告」にもとづきながら、1)学習支援機能、2)研究支援機能、3)保存・情報発信機能、4)社会貢献・社会連携、5)組織・運営の五つのカテゴリーごとに記述する。また、平成25(2013)年10月に実施した利用者アンケートの概要についても述べる。

1 学習支援機能：学習環境の整備

1.1 開館時間

(1) 総合図書館(総図)

【現況】

平成24(2012)年度の開館時間は、4月から7月、9月から2月は平日8時30分から22時30分、土・日・休日9時から19時、8月、3月は平日8時30分から21時、土・日・休日9時から17時までである。

【改善状況】

平成19(2007)年度まで、8月の平日は8時30分から19時までであったが、平成20(2008)年度に8月の開館時間を2時間延長し、秋季に試験を控える学部学生・大学院生へのサービス向上をはかった。時間延長に伴う経費増は、利用が最も少ない3月の閉館時間を1.5時間繰り上げることで調整した。

(2) 駒場図書館(駒図)

【現況】

平成24(2012)年度の開館時間は、平日は学期中8時40分から22時、夏季、秋季、冬季の休暇中、冬学期試験終了日(2月2週目頃)以降、専門科目試験終了前日までは平日8時40分から20時、専門科目試験終了後の春季休暇中は8時40分から17時である。土・日・休日は学期中10時から19時、夏・冬学期試験期間は10時から22時、専門科目試験期間は10時から20時、専門科目試験終了後の春季休暇中は閉館している。

【改善状況】

平成19(2007)年度まで土・日・休日の閉館時間は19時であり、冬学期試験終了日(2月2週目頃)の後は年度末まで土・日・休日は閉館、平日も17時で閉館していた。

平成20(2008)年度から3月の専門試験期間に合わせて、土・日開館及び開館時間の延長を開始した。冬学期試験終了日以降、専門科目試験終了前日まで、土・日も19時まで開館、平日

も 3 時間延長して 20 時まで開館することにした。

平成 22(2010)年度には、試験期間の土・日の閉館時間を 19 時から平日と同じ夏・冬学期試験期間は 22 時、専門試験期間は 20 時に延長した。

(3) 柏図書館(柏図)

【現況】

平成 24(2012)年度の開館時間は、平日は 4 月から 7 月、9 月から 3 月は 9 時から 21 時、8 月は 9 時から 17 時、土曜日は 4 月から 7 月、10 月から 2 月は 10 時から 17 時、8 月・9 月・3 月は閉館、日曜休日は通年閉館である。

【改善状況】

平成 21(2009)年末まで土・日は閉館していた。平成 22(2010)年 1 月～2 月に学内者を対象として土曜開館を試行した。新領域創成科学研究科の支援を得て、平成 22(2010)年度も利用の少ない 8・9・3 月を除く 9 か月試行を継続、5 月からは対象者を学内者から柏図書館友の会会員まで拡大した。平成 23(2011)年度から正式実施となり、8・9・3 月を除く 9 か月間土曜開館を行っている。

(4) 部局図書館室

【改善状況】

平成 20(2008)年度:工学・情報理工学図書館

グループ制を活かして各図書室のサービス体制を調整し、閉室日・閉室時間の縮減をはかった。従来は、職員数の少ない図書室では、窓口担当者が研修や会議などのため不在になる場合には、図書室を一時閉室せざるを得なかったが、平成 20(2008)年度に利用規則や業務マニュアルの統一化を進めたことにより、他の図書室から代理要員を充てることが可能となり、サービスを維持できるようになった。

このほか、工 2 号館図書室では、12 月 22 日から夜間開室を開始し、平日の開室時間 9:30～17:30 を 9:30～19:00 に延長した。

また、工 14 号館図書室では、まちづくり大学院(社会人向け修士課程)の教育研究に対応するため、11 月から土曜日の開室を開始した。開室時間は 10:00～13:00 である。

平成 21(2009)年度:農学生命科学図書館

従来通常期の平日は、学内で一番遅い 22 時 45 分までの時間外開館を行っていたが、平成 18(2006)年 9 月から 3 年間は、耐震強度低下による本館閉鎖、これに続く耐震改修工事により、時間外開館を 20 時に短縮していた。

平成 21(2009)年 9 月に、22 時 45 分までの時間外開館を再開し、実験の多い理系の利用者の利便性に配慮したサービスを行っている。

1.2 利用状況

【現況】

年間入館者数、館外貸出数の推移は以下の通りである。

入館者					貸出				
	総図	駒図	柏図	合計		総図	駒図	柏図	合計
H19	790,767	723,674	35,298	1,551,529	H19	135,712	140,681	32,107	308,500
H20	758,100	778,546	42,179	1,578,825	H20	148,899	158,898	37,348	345,145
H21	738,943	754,955	44,827	1,538,725	H21	153,816	171,492	37,581	362,889
H22	670,768	755,488	46,982	1,473,238	H22	147,650	169,023	31,978	348,651
H23	663,288	694,851	47,130	1,405,269	H23	142,534	165,699	31,996	340,229
H24	646,679	692,868	46,015	1,375,562	H24	142,905	170,480	32,846	346,231

※いずれも、「駒図」は本館のみの数値。

【改善状況】

平成 24(2012)年度の各図書館の年間入館者数は、平成 19(2007)年度から比べると、総図、駒図は減少、柏図は増加している。それに対し、館外貸出数は、平成 21(2009)年度がピークでその後多少減少しているが、平成 19(2007)年度に比べると3館とも増加している。特に駒図での貸出数が増加している。

1.3 学習用図書の整備

【現況】

平成 20(2008)年度から恒常的に措置されている学習基盤経費により、総合、駒場、柏図書館で学習用図書を購入している。図書の選定に際しては、教員からの推薦、図書館職員による選定のほか、学生自身の観点を活かすため、ジュニア TA による選書を実施している。

留学生向けの資料購入も別途行っており、平成 24(2012)年度に総合図書館では 162 冊の図書を購入した。柏図書館では図書 160 冊、英語の文学全集(Penguin Classics 40 冊)を購入したほか、英字新聞 2 紙(International Herald Tribune, The New York Times WEEKLY REVIEW)と英文雑誌 1 誌(Time)の購読を開始するなど、特に力を入れて収集した。

また、駒場図書館では、PEAK(Programs in English at Komaba:教養学部英語コース)の学生向けに図書を 93 冊(洋書 13 冊、和書 80 冊)追加整備し、学部プログラムへの支援を行った。

学習基盤経費による学習用図書購入数

平成 19 年度(*)	6,483 冊	平成 22 年度	18,522 冊
平成 20 年度	19,471 冊	平成 23 年度	13,313 冊
平成 21 年度	15,812 冊	平成 24 年度	15,526 冊

(*)平成 19 年度は総長裁量経費による

【改善状況】

平成 16 年(2004 年)度から 19 年度までの 4 年間は、総長裁量経費が措置され、学習基盤の整備を行った。学習基盤整備をさらに安定的に行っていくため、全学学生用図書費を全学協力経費から新たな恒常的教育研究事業として措置することについて、附属図書館から各部局に依頼したところ、多数の賛同を得た。その後、要望書を担当理事に提出し、審議の結果、平成 20 (2008)年度からは総合、駒場、柏図書館の学習用図書の整備充実のため、継続的な予算(5,000 万円)が措置されることとなった。

1.4 資料の取り寄せ

(1) 学内配送

【現況】

他キャンパスにある図書館室の資料を取り寄せるサービスは、全学の教職員、学部学生、大学院生を対象とし、Webで資料検索してそのまま直接申し込みできるようになっている。平成 24 (2012)年度の図書取り寄せ冊数は約 37,000 冊、返送のみの利用も約 17,000 冊に上るなど非常によく利用されている。

【改善状況】

開始当初、他キャンパスの図書館室の資料を取り寄せるサービスは、教職員及び大学院生のみが対象のサービスであった。平成 22(2010)年 5 月から、学部学生(前期課程、後期課程)も図書取り寄せサービスを利用して、他キャンパスにある図書館室の資料を借りることができるようになった。平成 22(2010)年度の全取り寄せ約 15,000 冊中、学部学生による取り寄せは約 1,300 冊となっている。

平成 23(2011)年 3 月の図書館システム更新により、学内資料の取り寄せは、Webで利用者自身が直接所蔵館に申し込みできるようになった。これにより従来と比べて文献入手にかかる時間が短縮され、学内図書館室間の図書取り寄せ冊数は、平成 22(2010)年度の約 15,000 冊から平成 23(2011)年度には約 30,000 冊に倍増、その後も順調に利用数が増加している。

平成 24(2012)年度には、バリアフリーの観点から、障害があるため直接来館が困難な利用者には同一キャンパス内であっても取り寄せサービスを行うことを申し合わせた。

(2) 文献デリバリ(旧学内 ILL, e-DDS)

【現況】

平成 16(2004)年度末より開始された e-DDS(PDF ファイル閲覧)サービスは、平成 24(2012)年度には規模の大きい図書館室のほとんどが受付対応館となっており、迅速なサービスの提供を可能としている。

平成 23(2011)年 3 月のシステム更新に伴って、学内からの複写物の取り寄せ(学内 ILL)につ

いても e-DDS と同様、利用者が所属図書館室を介さずに直接所蔵館に申し込む方式に変更され、文献デリバリとして両者は統合されたサービスとなっている。

【改善状況】

申し込み方式の変更によるサービス統合により、利用者の利便性が大幅に向上した。サービスの提供方式としては、複写物の取り寄せで学内便による研究室直送(公費支払のみ)を可能とした一方、PDF ファイル閲覧の対象資料を雑誌だけでなく図書にも拡大する館が増加してきている。

(3) 学外 ILL

【現況】

他大学などからの図書の現物貸借、文献複写の取り寄せサービスの実施件数の推移は以下の通りである。

図書借り受け

	総図	駒図	柏図	合計
H19	36	1,297	71	1,404
H20	24	1,365	107	1,496
H21	56	865	103	1,024
H22	50	1,088	41	1,179
H23	156	828	80	1,064
H24	165	827	50	1,042

複写取り寄せ

	総図	駒図	柏図	合計
H19	190	2,213	665	3,068
H20	183	2,229	782	3,194
H21	147	1,549	631	2,327
H22	200	1,404	272	1,876
H23	206	1,195	480	1,881
H24	162	1,095	201	1,458

※いずれも、「駒図」は本館のみの数値。

【改善状況】

他大学などからの図書の現物貸借、文献複写の取り寄せサービスについては、駒図、柏図では平成 24(2012)年度には、平成 19(2007)年度に比べて、サービス数が減少している。これにより、他大学から資料を取り寄せなくても、学内で必要な資料を収集できていると推測できる。総図では、図書借り受け数が増加しているが、これは「ホームライブラリのない部局所属者、部局に所属しない教職員(本部の各種機構の所属者など)」の利用が増加したことによる。

1.5 レファレンスサービス

(1) ASKサービス

【現況】

Webで参考調査質問を申し込み、質問内容に応じて最も適した図書館室が調査回答するASKサービスは、試行サービス1年余を経て、平成 18(2006)年 8 月から正式サービスとして位置付けられた。

平成 24(2012)年度にはほとんどの図書館室が参加するサービスとなっており、システムで公開

された回答事例も 300 件を数え、参考業務の重要な柱をなしている。

【改善状況】

調査回答の蓄積・共有化により、各図書館室での対応の迅速化にとどまらず、参考業務に関わる職員の能力向上に役立っている。

附属図書館参考調査係では、よりスムーズな対応やさらなる公開用回答事例の蓄積を図るため、運用ルールの整備などを行って各部局担当者への周知を行っている。

平成 23(2011)年 3 月の図書館システムのリプレイスに当たって、ユーザインタフェースの改善を行った。

(2) レファレンス受付

【現況】

カウンター、電話、FAX、メールによるレファレンスの受付件数の推移は以下の通りである。

【改善状況】

ASK サービスの普及、リテラシー教育の浸透、Web ページでの案内の充実などにより、単純な所在調査などが減少した結果、総図、駒図では、受付件数が減少している。

	H19	H20	H21	H22	H23	H24
総図	7,572	4,482	4,017	2,379	2,297	2,844
駒図	7,235	6,986	5,914	4,292	3,016	2,294
柏図	800	900	950	1,000	1,000	1,000

※「駒図」は本館のみの数値。

(3) 附属図書館利用ガイド

【現況】

学術情報リテラシー部会では、毎年 OPAC や電子ジャーナルの利用方法など全学に共通するサービスを紹介する「附属図書館利用ガイド」を日英両言語で作成し、入学式などで配布している。

【改善状況】

利用者に必須な情報を一目で分かりやすく伝えるため、平成 22(2010)年度、システムリプレイスにあわせて従来 B5 判 50 ページ以上あった利用ガイドを大幅に見直し、A5 判 8 ページのコンパクトなものに改訂した。

1.6 情報リテラシー教育

(1) 総合図書館

【現況】

春季・秋季に新規利用者などを対象に①図書館利用案内、②館内・書庫案内、③蔵書検索入

門の説明会を実施している。

毎月、情報システム部情報基盤課学術情報チーム学術情報リテラシー担当(平成 24(2012)年 6 月までは情報基盤センター図書館電子化部門学術情報リテラシー係。以下、学術情報リテラシー担当)主催の各種データベース講習会, テーマ別講習会を実施している。

【改善状況】

留学生については、各研究科で留学生オリエンテーションを実施する部署と連携し、日程などの調整を行い、より多くの学生が参加できるよう努めている。

自由参加型のオリエンテーションでは参加者へのアンケート結果をもとに、毎回、実施内容・時間帯などを見直し、利用者に役立つものとなるよう努めている。

(2) 駒場図書館

【現況】

春季に、文系1年生の必須科目「基礎演習授業」で、賛同を得た教員の担当するクラスの1コマを借りて図書館ツアー+検索実習コース, または検索実習のみのコースを実施し、秋季には 10 月入学の PEAK の学生向け「基礎演習」授業でも同様に図書館ツアーと検索実習コースを実施している。

その他、上記授業を受講しない教養学部学生(前期課程)などを対象とする図書館ツアー+検索実習コース, 大学院生向けコース, 利用者の希望に応じた小規模オンデマンド講習会などを実施している。

また、学術情報リテラシー担当主催の各種データベース講習会, テーマ別講習会を実施している。

【改善状況】

継続的な教員へのはたらきかけにより「基礎演習授業」での図書館ガイダンス実施件数は増加している。平成 24(2012)年度から基礎演習授業でのガイダンスを全課タスクフォース体制で実施することにより、職員の平均的なガイダンススキルの向上とフレキシブルなスケジュール対応を実現した。

さらに、教員、学生へのアンケート結果をもとに、ガイダンス内容を随時見直し、より効果的なリテラシー教育の実施に努めている。

(3) 柏図書館

【現況】

春季・秋季にそれぞれ、新領域専攻別ガイダンス, 柏図書館ライブラリーツアーを行っている。

留学生についても、春季・秋季に柏インターナショナルオフィスなどと連携し、留学生ガイダンスでの図書館紹介に加え、データベース講習会を実施している。

また、上記ガイダンスがそれぞれ一段落する時期に、学術情報リテラシー担当主催の各種データベース講習会、テーマ別講習会を実施している。

【改善状況】

参加者へのアンケート結果などをもとに、よりキャンパス構成員のニーズに対応した講習内容を検討し、随時実施に努めている。

1.7 その他

(1) 利用申請手続きの簡素化(附属図書館)

平成 20(2008)年 9 月から、図書館システムと学務システムとの連携により、学部学生・大学院生の利用申請手続きの簡素化を実現した。さらに平成 22(2010)年度からは、人事システムとの連携によって教職員についても同様に、簡素化した。

(2) 書庫の入庫資格拡大(総合図書館)

【現況】

書庫の入庫資格は本学構成員(教職員、大学院生、学部学生(前期課程、後期課程))、名誉教授、特別許可者である。

【改善状況】

書庫の入庫資格は本学教職員、大学院生、学部学生(後期課程)、名誉教授、特別許可者のみであったが、平成 24(2012)年 10 月から、教養学部学生(前期課程)の入庫を認める規則改正を行い、利便性の向上をはかった。

(3) 英語版 PC の導入(総合図書館)

平成 19(2007)年度に情報検索用 PC 10 台のうち 3 台を英語版に変更し、日本語に未習熟な外国からの研究者や学生のサービス向上をはかった。

(4) 貸出冊数増加(駒場図書館)

【現況】

一般貸出の貸出期間は教職員 30 日、学部学生・大学院生 2 週間、貸出冊数は教職員、学生とも 10 冊である。

【改善状況】

平成 19(2007)年 10 月から、総合文化研究科・教養学部所属の教職員、大学院生、学部学生(後期課程)に対して貸出冊数増加の試行サービスを行っていたが、平成 21(2009)年度から規則を改正し、所属を問わず、教養学部学生(前期課程)も含めて貸出冊数を 5 冊から 10 冊に増加した。

2 研究支援機能：学術情報基盤の整備

2.1 全学共通経費による基盤的学術雑誌などの整備

【現況】

学術雑誌（冊子と電子ジャーナル）やデータベースなど基盤的な学術情報を学内に安定的に供給することを目的に新たな学内施策として全学共通経費制度を設けている。平成 19（2007）年度に開始した第 1 期（平成 23（2011）年度まで）5 年が終了し、平成 24（2012）年度から第 2 期（平成 27（2015）年度まで）に入った。第 2 期の整備対象となる資料は第 1 期と変わらず、基盤的学術雑誌、バックファイルを含む電子ジャーナル、データベース及び大型コレクションであるが、雑誌の契約が電子ジャーナル中心になっていることから電子ジャーナルのある冊子の購入は部局負担に移行した。

また、第 1 期では過去の購読実績にもとづいて部局分担金を拠出していたが、第 2 期では過去の購読実績にはもとづかない一律の基準で分担金を算出することとした。拠出基準の変更に伴い、負担増が生じる部局については別途緩和策を設けることとし、第 2 期の最終年度にはすべての部局が一律の基準になるようにした。なお、第 2 期の財源計画では、契約額の上昇や為替変動などの影響があっても 4 年間安定した財源計画のもとに資料を供給できるよう制度設計されている。

【改善状況】

第 2 期は部局分担金と全学的資金から毎年定額（11.5 億円）を集め、第 2 期期間中に見込まれる価格上昇やレートの変動などに柔軟に対応できるよう制度設計し、第 1 期で提供していた電子ジャーナル、データベースの契約を維持することができた。

さらに本制度の導入に伴い、第 1 期開始当初から国内雑誌についても外国雑誌と同様、総合図書館で一括して事務を行い、学内の契約・支払業務の合理化・効率化を推進した。

2.2 大型コレクション

【現況】

全学共通経費に大型コレクション購入枠（年間 3,000 万円）を設け、通常の経費では購入できない高額資料（洋書は、300 万円以上）を購入している。全学からの推薦をもとに附属図書館サービス特別委員会で購入候補資料を選定し、図書行政商議会で購入を決定している。

平成 19（2007）年度から平成 24（2012）年度までの 6 年間でオリジナル資料 3 件、データベース 12 件合計 15 件の大型コレクションを購入した。

また平成 24（2012）年度に関連する規則などを変更し、これまで推薦部局の負担であった購入後に発生する年間維持費については、所定の手続きを経れば全学共通経費第 2 期の期間に限り、この経費から支出できるようにした。

【改善状況】

購入されたデータベースコレクションは、諸外国の図書館が所蔵する貴重書コレクションや議会資料、新聞や雑誌の集成である。これまで所蔵館に行かないと見ることができなかった資料をオンラインで利用することが可能となった。データベース化された資料は、冊子やマイクロ資料ではできなかったさまざまな視点からの検索を可能とし、研究環境の改善に役立っている。

2.3 電子リソースの整備

【現況】

平成 24 (2012) 年度現在、全学共通経費などにより提供されている電子リソースは、電子ジャーナル 8,729 タイトル、電子ブック 23,126 タイトル、データベース 73 件である。

また論文検索から文献の入手までを一元的に行えるよう総合図書館の共同利用図書費により平成 19 (2007) 年度から学術論文横断検索 (UT Article Search) と学術論文リンク (UT Article Link) を導入し、電子リソースの利用環境の改善をはかった。

平成 24 (2012) 年度には、契約している電子リソースの利用環境のさらなる改善を求めて新しい統合検索サービス (ディスカバリーサービス) の検討を開始した。

【改善状況】

全学共通経費開始時の平成 19 (2007) 年度には、冊子体雑誌 8,684 タイトル、電子ジャーナル 7,458 タイトル、データベース 57 件を提供していたが、平成 24 (2012) 年度は、冊子体雑誌 5,711 タイトル、電子ジャーナル 8,729 タイトル、データベース 66 件を提供し、全学に必要な冊子体雑誌を維持しつつ、電子資料の充実をはかり、研究環境が大幅に改善された。

また、平成 23 (2011) 年度にサービス特別委員会で共同利用図書の見直し (3 年毎) を行い、それまで情報基盤センターが提供していた文献管理ツール RefWorks を安定的に供給するため平成 24 (2012) 年度から総合図書館で購入することにした。

3 保存・情報発信機能:資料の保存と研究成果の発信

3.1 蔵書・コレクション

【現況】

平成 24 (2012) 年度末の附属図書館全体の蔵書は 9,266,963 冊 (和書 4,881,700 冊、洋書 4,385,263 冊) で、国内では国立国会図書館に次ぐ規模である。このうち洋書は 47.3% を占めている。電子ブックは総合図書館及びその他の図書館室で 6 出版社 7 種のコレクションを購入し、23,126 タイトルを全学に提供している。所蔵雑誌種類数は冊子が 160,184 タイトルで、電子ジャー

ナルは約 14,500 タイトルである。

貴重書について、附属図書館のホームページでは学内 11 図書館室で所蔵する主な貴重書のコレクション 85 件を紹介しており、このうち総合図書館では 49 件のコレクションを所蔵している。

新刊図書の財源としては、総合図書館、駒場図書館、柏図書館のキャンパス拠点図書館には学生用図書費の配分があるが、そのうち駒場図書館では毎年の効率化係数が反映されて金額が減少している。また部局図書館室では、それぞれの努力で部局の予算から資料費が確保されている。

【改善状況】

平成 18(2006)年度末の附属図書館全体の蔵書は 8,586,543 冊であったが、平成 24(2012)年度末までの 6 年間で平均して毎年約 157,000 冊を受け入れ、除籍と相殺すると毎年約 113,000 冊が増加したことになる。

3.2 所蔵資料の電子化

【現況】

平成 24(2012)年度末で、附属図書館のホームページには学内 10 図書館室の電子化コレクション 28 件が公開されている。これらはすべて貴重資料で、総合図書館ではこのうち 14 件を所蔵・公開している。

また、全学的な所蔵資料の電子化(例:Google Books Library Project)は、平成 18(2006)年度から 19(2007)年度にかけて検討され、図書行政商議会では時期尚早との結論に達したが、著作権処理の問題及び新図書館計画におけるハイブリッド図書館構想ともあわせて、あらためて検討すべき時期がきている。

【改善状況】

電子化の一例として、総合図書館所蔵の「鷗外文庫」の電子化事業は平成 17 年(2005 年)度から 21(2009)年度にかけて進められた。目録データを 8,388 件作成し、自筆写本・書入本の調査を行ったうえで電子化し、「鷗外文庫書入本画像データベース」として、平成 18(2006)年 3 月末に公開した。平成 22(2010)年 3 月現在、鷗外自筆写本、関連写本(歴史小説の資料となったもの)、書入れ本のうち、269 タイトル(和書 212、洋書 57)を公開している。

電子化作業及びその公開は、情報システム部情報基盤課学術情報チームデジタル・ライブラリ担当(平成 23(2011)年 6 月まで情報基盤センター図書館電子化部門デジタル・ライブラリ係、以下デジタル・ライブラリ担当)との連携・協力により進められており、「鷗外文庫」の他にも以下の貴重資料が電子化され、公開されている。

平成 19(2007)年度:法学部法制史資料室所蔵の「甲州法度之次第」

総合図書館旧蔵の「朝鮮王朝実録(五台山本)」と「東京帝国大学(写真帖)」

平成 20(2008)年度:総合図書館所蔵の「地震火災版画張交帖」と「直江状」

平成 21(2009)年度:総合図書館所蔵の「明・弘治十八年八月二十日勅令(鷗外文庫本)」

駒場図書館所蔵の「大日本海志編纂資料」

平成 22(2010)年度:総合図書館所蔵の「三十六歌撰絵巻」と「百鬼夜行図絵巻」

平成 23(2011)年度:総合図書館所蔵の「(享保八年)紀州熊野浦諸鯨之圖」

平成 24(2012)年度:総合図書館所蔵の「水野家古文書(水野忠幹氏旧蔵書文書)」

なお、「鷗外文庫」の電子化事業は平成 17(2005)年度・18(2006)年度に申請採択された科学研究費補助金(研究成果公開促進費)による事業展開だったが、平成 19(2007)年度には不採択となった。その後は総合図書館予算や全学遡及入力事業に繰り入れるなど、事業資金の財源基盤が安定しないまま、作業が行われた。

3.3 目録データの遡及入力事業

【現況】

附属図書館では、オンライン蔵書検索システム(OPAC)が導入される以前に紙の目録カードで整理されていた全学の図書について、遡及的に目録情報データを入力することによって、オンラインで検索できるようにする作業を進めている。平成 17(2005)年度から開始された第二期全学遡及入力計画(10 年次計画で 112 万冊)では、平成 24(2012)年度までに総合図書館、駒場図書館をはじめ、合計 13 部局の図書館室で合計約 50 万冊の目録データの遡及入力が完了した。

また、国立情報学研究所が公募する遡及入力支援事業は平成 21(2009)年度から 24 年度まで毎年採択され、総合図書館、駒場図書館をはじめ、合計 4 部局の図書館室で合計 7 万 5 千冊の目録データの遡及入力が行われた。他にも、各部局図書館室で独自に遡及入力が進められている。

また、新図書館計画への準備作業として、平成 24(2012)年度から 3 年計画で総合図書館が所蔵する未登録の製本雑誌約 17 万冊の遡及入力を開始した。初年度の入力件数は、約 2 万冊である。

遡及入力の対象となる資料のうち、比較的に入力しやすいコレクションから遡及入力を行ってきたが、今後は特殊言語資料や研究室配置資料など入力に手間のかかる資料への対応が必要となる。特に和漢書など貴重なコレクションの入力が望まれているが、入力者の確保や育成が困難になっている。また、国立情報学研究所の公募事業は平成 24(2012)年度で終了し、外部資金の獲得による遡及入力は困難となった。

【改善状況】

遡及入力が完了した図書については、全学及び学外から OPAC による所在検索が可能となり、東京大学が長年にわたり収集してきた知的資産の有効活用がはかられることとなった。特に第二期全学遡及入力計画の後半に当たる平成 22(2010)年度からは特殊資料の入力を本格的に開始し、総合図書館及び 3 部局(文学、東文研、史料)が所蔵する和古書・漢籍の遡及入力を実施した。

平成 24(2012)年度末までに、全学で入力が必要とする蔵書 852 万冊のうち、82%の目録情報データのオンラインでの検索が可能となった。

3.4 雑誌移管（自然科学系学術雑誌バックナンバーセンター機能）

【現況】

柏図書館は全学の自然科学系学術雑誌のバックナンバーセンター機能を担っており、第Ⅰ期から第Ⅱ期工事にかけて、単行書 100 万冊相当の収容能力のある自動化書庫が設置された。平成 17(2005)年度から 24 年度までに他の図書館室(総合図書館, 医学部, 工学部・情報理工, 理学部, 農学生命科学, 教養学部自然科, 教育学部, 薬学部, 医科研, 生研, 物性研, 及び大気海洋研)から移管された雑誌は約 33 万 1 千冊にのぼる。

【改善状況】

移管元の各図書館室で資料保管スペースに余裕が生まれる一方、柏図書館では移管された雑誌を e-DDS サービスを通じて、全学の利用に供している(1.4 (2) 文献デリバリ参照)。

移管に関する作業は定型化しており、移管元の図書館室が手順に従って準備作業することでスムーズな移管が進められている。

また、移管は製本済みの雑誌が対象であるが、未製本のままパンフレットボックスに入れて製本済みと同様に扱うことにより製本にかかる費用・手間が省かれている。

3.5 機関リポジトリ

【現況】

東京大学学術機関リポジトリ(UT Repository)とは、東京大学で生産されたさまざまな研究成果を電子的な形態で集中的に蓄積・保存し、学内外に公開することを目的としたインターネット上の発信拠点である。平成 16(2004)年度から情報基盤センター図書館電子化部門(現・情報システム部情報基盤課学術情報チーム)と連携してシステム構築を行い、平成 18(2006)年 4 月 1 日から「東京大学学術機関リポジトリ(UT Repository)」としてサービス公開を開始した。

UT Repository には学術雑誌論文や学会発表資料、科研費や COE 報告書など、さまざまなコンテンツが合計 30,430 件格納されているが、特に学位論文及び紀要などの学内刊行物を重点収集し、東京大学の研究成果を学内外に発信している。

学位論文については、医学系・工学系・農学生命科学系・新領域創成科学の論文博士を中心に UT Repository への登録を行い、平成 25(2013)年 3 月現在で 4,817 件が登録されている。

紀要については、既に公開済みの各紀要の最新号やバックナンバーを追加登録しているほか、各部局との連携によって平成 24(2012)年度には新たに 4 誌が加わり、現在 66 誌を公開中である。

UT Repository に登録した論文の平成 24(2012)年度のダウンロード利用件数は 3,930,296 件に達し、本学の研究成果の発信に貢献している。

【改善状況】

学位論文(特に博士論文)の収録拡充に向けて、すべての大学院研究科の学位論文事務担当部署を訪問し、学術機関リポジトリの趣旨説明を行った(教員に対する説明は、附属図書館長が各部署の教授会などにおいて平成18(2006)年度末から19年度に実施した)。その結果、新たに12研究科において学位論文の電子化公開許諾を含む収録手続きが整備された。

また紀要論文については、平成19(2007)年度に開発した目次機能(紀要を巻号単位で表示可能)を活かした公開紀要一覧ページを用意し、利便性の向上をはかった。

平成22(2010)年度からは、国立国会図書館の博士論文電子化事業に協力し、博士論文の公開件数を増加させた。

4 社会貢献・社会連携

4.1 オープンキャンパス, 一般公開

【現況】

オープンキャンパスに際し、総合図書館、駒場図書館では自由見学施設として職員による要所での説明などを実施するとともに、常設・企画展示を通じたコレクションの紹介などに努めてきた。また、部局図書館室においても、それぞれの部局の方針に従って自由見学や特色ある展示などを実施している。

柏図書館では、こうした従来の対応にとどまらず、柏キャンパス一般公開において、講師を招いての講演会(平成20(2008)～22(2010)年度)、所蔵DVDの上映会(平成20(2008)～24(2012)年度)、ビブリオバトルの開催(平成23(2011)～24(2012)年度)など、意欲的にさまざまなイベントを企画・開催している。

【改善状況】

大学図書館は、従来、学外者にとっては遠い存在と意識されてきたために、オープンキャンパスで自由見学のようなかたちで公開すること自体が一定の意義を持つものであった。

一方で、地域社会との連携を前提として誕生した柏図書館では、大学の地域社会への貢献をアピールする場として一般公開を位置づけ、これまでに大学図書館が行ってこなかった企画を試み、成果をあげている。

4.2 催し物

【現況】

総合図書館では、蔵書をもとにした常設展示に加え、本学の行事と連携した特別展示や記念講演会を随時展開してきた。その内容はデジタル・ライブラリ担当の協力により、電子展示としてWeb上でも公開されている。

また、平成 23（2011）年度からは新図書館構想を学内外に広報するとともに、イベントを通じて参加者に現在の図書館と新図書館構想への理解を深めてもらうことを目的とした Academic Commons Project が開始され、ブックトーク、ビブリオバトル、シンポジウム、セミナーなど多くの企画が実施されている。

柏図書館では、キャンパス一般公開の際の特別展示や講演会、ビブリオバトルなどに加え、「わくわくミニコンサート」（年 2 回）や上映会（年 2～3 回）を定期的で開催しており、平成 24（2012）年度からは地域の市立図書館や大学図書館との連携企画（ビブリオバトル、バスツアーなど）も開始した。

その他、駒場図書館のほか多くの部局図書館室では、主としてオープンキャンパスやホームcomingデイに合わせて、企画展示や講演会などが開催されている。

多彩で数多くの催し物を実現する一方、なかには図書館以外の諸行事やイベントとの連携のため、調整期間のない日程での企画・開催もみられ、図書館室によっては困難な対応をせまられるケースが散見されている。附属図書館としての中長期的なビジョンにもとづいて、主体的に催し物を企画・運営するために、教員・事務サイドとの情報共有に努め、調整していく必要がある。

【改善状況】

各部局の特色を活かした展示会の開催が増えてきているのに加え、新図書館構想に関連した総合図書館での取り組みや、地域連携を柱とした柏図書館での諸企画など、従来には見られなかった積極的な活動が行われている。

4.3 友の会

【現況】

柏図書館では、地域貢献などの活動支援や会員相互及び図書館職員との交流の促進をはかることを目的として、平成 20（2008）年度に「柏図書館友の会」が発足した。学外者も入会が可能であり、会員は開架図書の館外貸出や施設利用ができるようになるほか、友の会ニュースや各種催事の案内が配信されている。会員数は平成 24（2012）年度末で 354 名である。

これまで「わくわくミニコンサート」や上映会などを後援し、平成 24（2012）年度には同コンサート用のグランドピアノの購入にも大きな役割を果たしている。

平成 22（2010）年度からは土曜日入館、平成 23（2011）年度からは DVD 貸出の開始と、それぞれ試行期間を経た上で、随時サービスの拡大もはかられている。

駒場キャンパスにおいては、同キャンパスの卒業生や元教職員を中心とした「駒場友の会」（平成 16（2004）年 3 月設立）があり、駒場図書館へ学生用図書費の支援を行っている。会員は同館の館外貸出が受けられ、会友（学生の父母など）は同館に入館できる。

4.4 他の大学図書館との連携・協力

【現況】

東京大学附属図書館は、国立大学図書館の連合組織である「国立大学図書館協会」の会長館として、国立大学図書館の機能向上に関し必要な調査研究、学術情報資源の共同整備と相互利用の促進、国立大学図書館職員の資質向上のための事業、学術情報流通に関する国内外の団体との連携・協力などの協会活動に主体的に取り組んでいる。また、国公立大学図書館協力委員会において、常任幹事館を務め、大学の設置母体を超えた連携にも注力している。

また、電子ジャーナルなどの確保と恒久的なアクセス保証体制の整備を進めるための大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)が平成 22(2010)年 10 月、国立大学図書館協会のコンソーシアムと公私立大学図書館コンソーシアムの統合によって設立されたが、東京大学附属図書館は、常設事務局への専任職員の派遣、運営委員会及び作業部会委員の派遣などを行っている。

5 組織・運営

5.1 組織と職員

【現況】

東京大学において「附属図書館」は、総合図書館、駒場図書館、柏図書館の三つのキャンパス拠点図書館と部局図書館室すべての総称であり、実体としての「附属図書館」の建物は存在しないし、統一的な組織になっているわけではない。

附属図書館全体の基本政策について全学的見地から審議・決定するのは、館長と各部局から推薦された教授から構成された図書行政商議会である。商議会は、年に概ね 4 回開催されているが、平成 17(2005)年度から商議会のもとに、キャンパス部会及び附属図書館運営委員会が設置された。キャンパス部会は、各キャンパスにおける図書館業務に関する事項の審議、各キャンパスにおける部局図書館間の連絡調整を行うため、各キャンパスに置かれた。附属図書館運営委員会は、商議会から委任された事項の審議を行うことを任務としている。

図書館の業務を担う職員については、総合図書館と柏図書館の職員は附属図書館事務部に所属しているが、部局図書館室の業務を担う職員は各部局の事務部に属している。職員数の管理は部局ごとであり、削減計画の決定は部局によって行われている。

図書系職員(常勤職員)は全学で、平成 19(2007)年度の 193 人から 24 年度の 174 人へと 5 年間で 10%削減されている。臨時職員についてもフルタイム換算で、平成 19(2007)年度の 112.5 人から 24 年度の 108.5 人へと 5 年間で 3.6%減少している。

また、図書館の業務が部局ごとに分散していることから、全体として非効率であり、それだけ多くの職員が必要になっており、一人あたりの業務処理量は他大学に比較して少ない。

【改善状況】

従来からの業務別部会の活動に加えて、新図書館構想を機に、部局横断的に図書系職員による新図書館課題検討グループが立ち上げられ、若手職員からの多くの参加を得て、将来に向けての活動が始まっている。

5.2 予算・経費

【現況】

全学的な学術情報の基盤となる学術雑誌、電子ジャーナル、データベースについては、「全学共通経費」により整備している。また、総合、駒場、柏の3キャンパス拠点図書館の学習用図書については、大学からの継続的な予算措置がなされている。

しかしこれらの経費を除き、部局図書館の資料費、運営費は、基本的にそれぞれの部局の予算に依存している。部局が投入する原資の多寡によって、部局図書館の整備状況は異なったものとなっている。

附属図書館に配分される予算でまかなっているのは、総合図書館及び柏図書館の資料費と運営費に過ぎないが、総合図書館と柏図書館に限ったとしても、大学から配分される予算だけでは、新規の事業を行っていくのに不十分である。

平成 23(2011)年度の大学全体の図書館運営費(人件費を除く)は 3 億 6,300 万円であり、平成 19(2007)年度の 4 億 1,000 万円に比べると大学全体で 11.4%の減少となっている。

平成 24(2012)年度の資料費は 14 億 9,200 万円であり、平成 19(2007)年度の 18 億 800 万円に比べると大学全体で 17.5%の減少、部局図書館分に限ると 22%の減少となっており、全学共通経費で購入している学術雑誌・電子ジャーナルなどを除くと、図書を購入する予算は大きく縮小している。

【改善状況】

平成 19(2007)年度に全学共通経費が措置されたのに続き、平成 20(2008)年度からは学生用図書費が恒常的に配分されるようになった。

5.3 全学資料購入集中処理

【現況】

平成 16(2004)年度から、図書館で購入している図書資料を全学で共同購入することにより経費節減と事務の効率化をはかるため全学資料購入集中処理システムを導入した(第1ステージ)。平成 20(2008)年度からは、第 2 ステージとして図書館を通さず研究室などで購入されている図書についても第 1 ステージと同様の有利な条件で購入できるようにした。

平成 24(2012)年度における第1ステージと第2ステージの取扱総額は約 3 億円であり、約 1,400 万円の経費が節減できた。

【改善状況】

平成 19(2007)年度から平成 24(2012)年度までの取扱総冊数は約 25 万冊, 取扱総額は約 19 億円であり, 評価期間中の 6 年間で約 9 千万円の節減となった。

5.4 図書資産の実査

【現況】

法人化に伴い国立大学法人では従来の蔵書点検と比べてより網羅的・体系的に図書を資産として管理するようになった。東京大学においては, 平成 17(2005)年度から全学の図書館室では蔵書数に応じてそれぞれ 5 年または 10 年で一巡する図書資産の実査計画を作成・実施している。

3キャンパス拠点図書館は, 各館が所蔵する全蔵書を対象に 10 年を周期として図書資産の実査を行い, 平成 26(2014)年度までに 1 巡目の実査計画を終了する予定である。

部局図書館室のうち, 蔵書数が 10 万冊以下の図書館室においてはすでに 1 巡目が終了し, 平成 22(2010)年度から 2 巡目に入っている。

【改善状況】

実査中に判明した不明図書は翌年度に再度調査し, 2 年目も不明だった場合には除却するなど図書資産の適正な管理を行っている。また, 平成 23(2011)年度には業務改善の点から実査方法の一部見直しを行い, 全学における実査作業の負担軽減をはかった。具体的には, 図書館システムに所蔵データ入力完了していない蔵書(一定のまとまりのある図書群)については, 部局図書資産担当者が遡及入力計画を別途策定することを前提に毎年の実査対象としないことができるようにした。

5.5 施設の整備

【現況】

総合図書館では随時, 照明設備の増設など, 閲覧環境の改善を行う一方で, 資料保全のため飲食ルールの整備と利用者への周知徹底に努めた。

また, 各部局図書館室では以下の通り順次耐震工事が実施に移され, これを機に閲覧環境の整備や利便性の向上もはかられている。

法学部研究室図書室:平成 24(2012)年度完了

医学図書館:平成 19(2007)年度完了

工学系研究科・工学部 7 号館図書室:平成 21(2009)年度完了

理学系研究科・理学部図書室 生物科学図書室:平成 20(2008)年度完了

農学生命科学図書館:平成 21(2009)年度完了

東洋文化研究所図書室:平成 20(2008)年度完了

社会科学研究所図書室:平成 21(2009)年度完了

史料編纂所図書室:平成 21(2009)年度完了

その他、海洋研究所図書室が平成 21(2009)年度に大気海洋研究所図書室として柏キャンパスに移転し、工学系研究科・工学部 3 号館図書室が建替工事中である(平成 25(2013)年度完了予定)。

平成 23(2011)年 3 月の東日本大震災では、室内壁面の崩落や書架の転倒も一部では見られたものの、こうした耐震化の進捗により、施設としての被害は比較的軽微なもので済んでいる。

6 利用者アンケート

6.1 利用者アンケートの概要

このアンケート調査は、東京大学のキャンパス拠点図書館及び部局図書館室を利用する学生の利用状況とサービスへの満足度を把握し、今後の附属図書館が学習・研究の支援を進める上で参考とすべき資料とすることを目的としたものである。

自己点検評価の一環として、平成 25(2013)年 10 月 2 日(水)から 10 月 16 日(水)までの期間で、本学学生を対象として実施した。

調査方法は、ウェブ上にアンケートのページを用意し回答フォームに入力するかたちをとった。広報は、附属図書館ウェブサイトに掲載したほか、図書館システムにメールアドレスが登録された学生 27,164 名へ協力依頼のメールを送付した。回答の際に所属を聞いているが学生番号などの認証は行っていない。

図書館を利用していない学生の声を反映させるため、質問数をできる限り少なくし短時間で回答できるものを用意した。

6.2 アンケート結果

(1) 全体の概要

回答数は 2,172 件で回答率は約 8%であった。回答結果からわかる、学生の利用状況は次の通りである。

○駒場キャンパスの学生は駒場図書館を主に利用するが、本郷キャンパスでは拠点図書館を主に利用する者と部局図書館を主に利用する者が同程度いて、両方を同じぐらい利用する学生も多い。

○週に 1~2 回利用する学生が多い。図書館を利用しない学生も 6%いて、理由は電子資料を図書館に行かなくても利用できることと、物理的に遠いことを上げる。必要な資料が無いとか、開館時間が適当でないからとする学生もいた。

○サービスについては、図書の取り寄せは利用も多く満足度が高いが、雑誌コピーの取り寄せは利用していない学生が多い。オリエンテーションや講習会は認知度が高いのに対し、参加する学生数は全体から見ると少数である。Web サイトや My OPAC はよく使

っていて満足度も高いが、リポジトリは知らない学生が多い。論文検索や DB 検索は半数近くの利用があり満足度も比較的高いが、自宅などキャンパス外からデータベースや電子ジャーナルを利用できることを知らない学生も少なくない。

○今後の附属図書館について、拠点図書館は電子ジャーナルや図書などの資料の充実に力を注ぐべきと考える学生が多いが、空調・音響などの施設環境の改善や、学習・研究スペースの充実への期待も大きい。

(2) 回答結果の概要

【回答者の属性について】

・教養学部・総合文化が 20%，工学部が 19%，法学部，文学部，理学部が各々 8% となっていて在籍者の割合を反映しているが、身分別では修士・博士の大学院生が 51%，学部生は前期課程が 19%，後期課程が 24% となり，大学院生が若干多い。

【1. 図書館の来館利用について】

【1.1 普段、学習・研究を行っているキャンパス】

・本郷キャンパスが最も多く 50% を占め、弥生キャンパス (6%)，浅野キャンパス (2%) を含めた本郷地区全体だと 58% になる。駒場 I キャンパス (34%) と駒場 II キャンパス (2%) を合計した駒場地区だと 36% であり，柏地区は 4%，その他は 2% となっている。大学院生の回答率が高かったため本郷地区が若干多いが，概ね各キャンパスから回答を得ている。

【1.2 キャンパス拠点図書館と所属の部局図書館のどちらを主に利用しているか】

・主に拠点図書館を利用している学生が 51% と半分を占め，24% が部局図書館，18% が拠点図書館と部局図書館を同じぐらい利用していると答えている。どちらもほとんど利用していない学生が 6% いる。

・これをキャンパス別に見ると，本郷キャンパスは拠点図書館 34%，部局図書館 33%，どちらも同じぐらい 27% と，拠点図書館と部局図書館がほぼ同じ程度に利用されている。一方，駒場キャンパス（駒場 I）では 84% が拠点図書館を利用している。

・拠点図書館の内訳は，駒場図書館が 57% と最も高く，総合図書館 37%，柏図書館 6% の順になっている。

・部局図書館の内訳は，工学・情報理工学研究科 (20%)，農学生命科学図書館 (11%)，医学図書館 (11%)，文学部図書室 (10%)，経済学図書館 (9%)，研究所・センターの図書室 (8%) などとなっている。

【1.3 利用頻度】

・図書館の利用頻度は「週に1~2回」(43%)と答えた学生が一番多く、次に多い「月に1~2回」(33%)と合わせると全体の4分の3を超える。次に「ほぼ毎日利用する」(16%)、「年に数回」(7%)となっている。

【1.4 利用しない理由（複数回答可）】

・あまり利用しない学生にその理由を聞いたところ、「電子ジャーナルなどインターネットで必要な資料は集められる」と答えた学生が27%で最も多く、次に「教室や研究室から遠い・通り道に無い」(17%)という立地条件をあげた。「必要な図書や雑誌がない」(12%)、「利用したい時間に開いていない」(9%)、「利用したい日に開いていない(土日祝日、休暇中など)」(9%)なども各々1割ぐらいの学生が理由としてあげている。多くはないが「学外の学習スペース、カフェなどを利用している」(6%)を選択した学生もいた。自由回答の中には「学部を卒業した大学の図書館も利用でき、その方が自宅からも近く、快適。飲み物の持ち込みもOK」と他大学図書館の快適さを理由にあげる意見もあり、「換気が悪い」と書いた学生もいた。

【1.5 キャンパス拠点図書館の利用方法と充足度】

・<a-1 学習や研究に必要な図書や雑誌(電子ジャーナルを含む)を読む>学生が72%、<a-2 学習や研究に必要な図書や雑誌を借りる>学生は80%に及んだ。<a-2-1 一回の貸出冊数は適当である>が81%であるのに対し、<a-2-2 一回の貸出期間は適切である>は67%と若干低く、33%は適切でないと答えている。

・<a-3 学習や研究に必要な図書や雑誌は揃っている>と答えた学生が66%いるが、「どちらかといえばあてはまらない」も25%いる。

・<a-4 新聞や一般的な雑誌を読む>学生は29%しかおらず51%は全く読んでいない。

・<b-1 課題やレポートの資料を集めたり、執筆したりする>学生は75%を占め、<b-1-1 十分な台数のパソコン、コピー機やプリンタがある>として50%の学生が利用している。また<b-1-2 有線・無線LANが利用できる>とした学生も56%いた。

・<b-2 集中して個人学習する>学生は72%と高く、<b-3 グループで学習・研究を行う>学生は11%にしか過ぎない。一方、<b-3 グループ学習用の部屋やスペースは利用したいときに使える>とした学生は27%いた。

・<c-1 図書館職員に質問・相談する>と答えた回答は31%であり、<c-2 ガイダンス、講習会などに参加する>学生は18%である。

・<c-2-1 ガイダンスや講習会はその後の学習や研究に役立った>かの設問には28%が肯定的な答えをしている。

【1.6 附属図書館全体として提供している来館型サービスの満足度】

- ・<c-1 他のキャンパスからの図書の取り寄せができる>について、「満足」「どちらかといえば満足」が 55%を占めたが、一方「利用したことがない」(34%)、「この質問で初めて知った」(6%) という回答もあった。
- ・<c-2 他のキャンパスから雑誌のコピーを取り寄せられる>については、「満足」「どちらかといえば満足」が 34%で、「利用したことがない」(46%)、「この質問で初めて知った」(15%) は各々図書の取り寄せよりも多い。
- ・<c-3 附属図書館で開かれるオリエンテーションや文献の探し方などの講習会に参加したことがある>の満足は 25%で、「利用したことがない」(66%) は図書の取り寄せや雑誌のコピーの取り寄せよりもさらに高くなるが、「この質問で初めて知った」(6%) はそれほど高くなく、広報などで認知度は高いと思われる。

【1.7 非来館型サービスの認知度】

- ・<a-1 附属図書館 Web サイト>は「よく利用する」「たまに利用する」を合わせて 78%の学生が利用している。「知っているが利用したことはない」は 13%、「この質問で初めて知った」も 10%存在した。
- ・<a-2 東京大学の研究成果を見る UT Repository>については 25%の利用があり、「知っているが利用したことがない」は 28%、「この質問で初めて知った」は 47%となっていて半数近くが知らないと答えている。さらに詳細を見ると、学部生の利用は 13%であるのに対し、大学院生は 35%が利用したことがあると答えている。
- ・<a-3 貸出期間の延長や予約ができる My OPAC>は「よく利用する」(42%)と「たまに利用する」(24%)を合わせると 3分の2の学生が利用していることになるが、「知っているが利用したことはない」も 19%と 2割に及び、さらに「この質問で初めて知った」が 15%も存在する。
- ・<a-4 学術論文を探す UT Article Search>を利用している学生は 50%で、「知っているが利用したことはない」(25%)、「この質問で初めて知った」(25%)が同じ程度であった。
- ・<a-5 データベースを探す GACoS>については、39%の学生が利用しており、「知っているが利用したことはない」が 27%、「この質問で初めて知った」が 37%となっている。この回答でも、学部生の利用が 18%なのに対し、大学院生は 48%が利用している。
- ・<a-6 図書館へ質問する ASK>については、「よく利用する」(1%)と「たまに利用する」(6%)を合計しても 1割に満たず、存在を知らない学生が 61%いた。
- ・<a-7 SSL-VPN サービスを利用した、自宅などキャンパス外からの電子ジャーナルやデータベースへのアクセス>については、「よく利用する」(22%)と「たまに利用す

る」(21%)を合わせると43%の学生が利用している。「知っているが利用したことはない」は24%、「この質問で初めて知った」は33%存在する。このサービスでも、学部生の利用は32%、大学院生は52%となっており、大学院生の利用が多い。

【1.8 非来館型サービスの満足度】

・<a-1 附属図書館の Web サイトでは探している情報を簡単に見つけられる>については、「満足」(20%)と「どちらかといえば満足」(46%)を合わせると66%の学生が満足しており、「どちらかといえば不満」「不満」の合計は12%であった。一方、「利用したことがない」の回答も21%存在した。

・<a-2 OPAC(蔵書検索システム)で必要な図書や雑誌を見つけられる>については、80%の学生が満足している。不満の回答は10%、「利用したことがない」も9%存在した。

・<a-3 My OPACで図書の予約や取り寄せ、貸出期間の延長をする>については、66%の学生が満足し、不満とする者は4%に過ぎなかった。「利用したことがない」が31%存在した。

・<a-4 利用したい電子ジャーナルを自由に読める>については、52%が満足しており、不満とするのは17%であった。一方、31%の学生が利用したことがなかった。

・<a-5 学習・研究に必要なデータベースが提供されている>について満足している学生は61%、不満とするのは17%であり、22%の学生は利用したことがないと答えている。

・<a-6 自宅などキャンパス外からデータベースや電子ジャーナルなどにアクセスできる>については、46%の学生が満足しており、12%が不満としている。利用したことがない者は42%存在した。

・<a-7 メールによる質問(ASK)サービスの回答は適切だった>については、利用した者が少ないため、満足している回答は7%であり、不満とする回答も1%と少数であった。92%の学生が「利用したことがない」と答えている。

【2. 今後の附属図書館について】

【2.1 拠点図書館が最も力を注ぐべき点について】

・「普段、学習・研究を行っているキャンパスの拠点図書館はどの点に最も力を注ぐべきだと思いますか。」の設問に対する回答は、「b.図書を充実させる」(30%)、「a.電子ジャーナルなど電子的資料を充実させる」(24%)、「e.空調、音響など施設環境を改善・向上させる」(17%)、「d.学習・研究のためのスペースを充実させる」(17%)「f.ライティング・サポートなど学習・研究に役立つサービスを提供する」(5%)、「c.(紙の)雑誌の購読タイトルを増やす」(3%)、「g.その他」(4%)となっている。「その他」と

しては、開館時間の延長、図書を取り置き、文献複写の郵送サービス、蔵書の集中化、快適な空調、トイレの異臭を改善するなどの環境整備、清掃の強化など多数あげられた。

・「b.図書を充実させる」を選んだ学生にさらに「拠点図書館はどのような図書を重点的に揃えるべきだとお考えですか？」と聞いたところ、「b-2 大学院以上の専門的な研究用図書」(54%)、「b-3 入門書、一般教養書」(24%)、「b-1 教科書やシラバスに載っている参考図書など学習用図書」(22%)となった。

・「a.電子ジャーナルなど電子的資料を充実させる」と答えた学生に具体的な分野や資料名の記述を求めたところ、人文科学系雑誌や日本語の電子ジャーナルをはじめ可能な限り電子化してほしいとの希望が多数を占めた。

・「d.学習・研究のためのスペースを充実させる」ことを選択した学生に「現在、あなたが利用している拠点図書館には何が不足していると思いますか？(複数回答可)」と尋ねたところ、「d-1 個人で集中して利用できる閲覧席」(48%)、「d-3 個別のコンセントや無線 LAN などの設備」(29%)、「d-2 グループで利用するセミナー室等」(18%)、「d-4 その他」(5%)となった。「その他」には、24 時間など開館時間の延長、ラウンジや自動販売機などの設置、空調などの環境改善、トイレの充実などがあげられた。

【2.2 新図書館計画】

・「a.本郷キャンパスの総合図書館を大幅に拡充する計画であることを知っている」(31%)、「e.新図書館計画の存在は知っているが、内容は良く知らない」(14%)の他、「b.Facebook ページを知っている」(2%)、「c.Twitter アカウントを知っている」(4%)、「d.関連イベント(ブックトーク・講演会)に参加したことがある」(1%)と答えた学生がいる一方、初めて知った学生が 48%と多かった。

【2.3 その他(自由記入の意見・要望)】

・試験期間中に座席が不足する、一部分だけでも 24 時間開館してほしい(複数)、学生がキャンパスの中で最も多くの時間を費やせる拠点となるよう、購買、食堂、リフレッシュ施設など包括的な図書館改革が必要、法学部生などの自習スペースと化しているのが残念、新図書館ができて開架スペースを十分に確保すべき(多数)、冷暖房を完備し環境を改善してほしい、部局図書館に専門書が少なすぎる、など。

第3部 附属図書館の評価

第3部では、第2部で記述した附属図書館の活動概況を土台としながら、五つのカテゴリーごとに附属図書館の活動を分析し、評価を行う。

1 学習支援機能

附属図書館ではこれまで、学生の学習を支援するために、図書館の利用環境を整備し、学習用図書を充実させるなど、利用サービスの拡大を進めてきている。

開館時間については、学生から休日も含めた時間外開館の拡大の要望が寄せられており、それに応じて評価期間中も適宜その拡大をはかってきたことは評価できる。24時間開館も含めたさらなる延長については、予算面はもちろん、セキュリティ面・学生の安全の確保などを十分に考慮して、その実現に向けて引き続き検討していく必要がある。

一般的に、大学図書館の入館者数は、電子リソースの増加やオンラインサービスの充実などの非来館型サービスの拡充により、減少傾向にあるといわれている。本学の場合、附属図書館全体としての入館者数は、平成20(2008)年度以降減少しているが、個々の図書館室の入館者数の推移をみると、理系の図書館で増加しているところもあり、増減を繰り返している図書館もあるので、一律に減少しているわけではない。三つのキャンパス拠点図書館のなかでは、総合図書館の入館者数の減少(評価期間中の6年間で約14万人減)が目につく。新図書館構想における本館の改修や来館者へのサービス向上によって、「場所としての図書館」の魅力を増すことで入館者数の減少に歯止めがかかることが期待される。また、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災による閉館・開館時間の短縮などで一時期入館者数が大幅に減ったという特異な事情が統計にはあらわれている。

学生の学習方法について駒場Iキャンパスの例をあげれば、駒場図書館内の静かな環境での学習だけでなく、21KOMCEEなどで能動的学習を行うようになってきている。今後も、「学部教育の総合的改革」の進展にそって、グループによるディスカッションやプレゼンテーションの機会がますます増えることが見込まれ、そのためのスペースや設備の充実のために図書館が果たすべき役割は大きいだろう。

図書の貸出数については、入館者数とは逆に増加の傾向が見られる。このことはキャンパス間の図書の取り寄せサービスが拡大し、その活用が進んだことが要因として考えられるし、遡及入力が進展したことで検索時に蔵書が見つかりやすくなったことの影響もあるだろう。附属図書館のサービス拡大が、図書の貸出数の増大という成果としてあらわれたとも言える。

学習用図書の選定については、シラバス掲載図書の整備、教員からの推薦や図書館職員による選書を行っている。ジュニアTAによる選書を取り入れている図書館室も増えてきており、学生の

視点から学生自身のニーズにそった図書を整備するという点が評価できる。また、留学生用図書の整備も各図書館室で行われていて、大学のグローバル化の方針とも合致しており、グローバル・キャンパスに相応しい蔵書構築が進められている。

学習用図書の整備・充実のための予算の確保に取り組み、平成 20(2008)年度からは学習基盤経費が恒常的に措置されるようになるなど、継続的な予算措置を確保したことは評価できる。総合大学として学習が多分野・多領域にわたる本学の学生の能動的学習の支援や教養教育の高度化のために、この予算による学習用図書の充実は大いに役立つと思われる。

学生が図書館を有効に活用できるようにするために、新規利用者向けのオリエンテーション、授業と連携した図書館ガイダンス、データベースやオンラインサービスの講習会、留学生を対象にした図書館ガイダンスなど、附属図書館ではさまざまな取り組みを行っている。文系の新入生の大多数が、基礎演習の授業の1コマを使った図書館ガイダンスとして、検索実習と駒場図書館のツアーを受講していることは高く評価できる。これらのガイダンスなどの受講者アンケートからは、内容を高く評価していることがうかがえる。また、教員からも好評であるので、より受講者が増えるように広報を進めることが効果的であろう。

レファレンスサービスの受付件数は大幅に減少しているが、これは Web ページでの案内や情報リテラシー教育の浸透により単純な所在情報の調査が減少したことによるもので、このことにより図書館職員がより高度なレファレンスに時間を振り向けることが可能になったと考えられる。今後、アクティブ・ラーニングなど学生の自主学習の増加にともない、レファレンスサービスのさらなる活用が期待される。ASK サービスについては、アンケート調査の結果によると知名度がかなり低い、有効活用している事例も多いので、今後普及していくことが期待できる。

以上のように、全学的に見て、学生の学習環境の整備やサービスの拡大・充実が進んでおり、附属図書館の学習支援機能は順調に強化されつつある。今後は、本学における「学部教育の総合的教育改革」の動向を踏まえながら、大学全体の方針にそって学習支援活動を改善・充実していくことが、学生にとってより魅力的な図書館サービスの構築につながるだろう。

2 研究支援機能

附属図書館の研究支援機能は、大学全体として研究に必要な学術情報の整備をはかるといふ点では、評価期間中に大きく改善・強化された。その最も大きな成果は全学共通経費制度である。平成 15(2003)年 2 月の「東京大学附属図書館中期目標・中期計画」において、計画項目の冒頭に「附属図書館の予算制度の改革」があげられており、全学共通図書予算(学術情報基盤整備予算)制度の確立が「共働する一つのシステム」のための課題とされている。全学共通経費による基盤的学術雑誌などの整備は、まさにこの課題を達成したのものとして高く評価できる。

同じく全学共通経費の枠組みのなかにもうけられている大型コレクションの制度もまた大きな達成の一つである。理系分野が中心である電子ジャーナルに対して、大型コレクションでは主として文系分野を中心に高額資料やオンラインコレクションを整備してきた。部局や研究室の図書館室では購入が困難な資料を、全学的な視点から選定して購入するこの制度は、研究活動を支援する上で有意義であり、(特に文系の)研究者からは広く支持を得ている。このように全学の共通経費をうまく活用して、電子ジャーナルと大型コレクションに代表されるように理系と文系それぞれの分野の学術資料をバランスよく整備している点は大いに評価できる。

電子リソースの整備に関しては、電子ジャーナル及びデータベースは質・量ともに整備が進んでおり、よく利用されている一方で、電子ブックについては課題が多い。タイトル数こそ 2 万タイトルを超えているものの、電子ブックに対する認知度が低いこともあって十分に利用されておらず、コレクションとしても充実しているとは言いがたい状態である。平成 19(2007)年度に学術論文横断検索(UT Article Search)と学術論文リンク(UT Article Link)が導入されて電子リソースの利用環境は改善されたが、平成 26(2014)年度からのディスカバリーサービスの導入により、電子ブックの視認性がより高まることが予想されることから、利用者のニーズにこたえうるような研究書の体系的な整備が望まれる。

今後も引き続き学術情報の整備を進めていく上で、最も大きな課題は財源の問題である。電子ジャーナル、データベースともに毎年の値上がりがあり、為替変動も大きく影響する。また消費税率が引き上げられるだけでなく、これまで非課税であった海外のオンライン資料についても消費税を課税する動きがあり、より安定的な財源の確保が求められる状況にある。附属図書館が学術情報の整備を通じて研究を支援するために果たしている役割を、積極的に全学にアピールして予算措置への理解を得ることはもちろん、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)の活動を通じての他大学との連携や国際的な情報収集を行うことで、少しでも値上がりに歯止めをかけるための努力を、これまで通り継続していくことが必要であろう。

さらに附属図書館の研究支援機能をより高度化していくためには、これまで行ってきた学術情報の整備に加えて、研究活動に即した新たな試みを積極的に展開していくことも考えねばならない。たとえば、研究費獲得のための情報分析、著作権処理のノウハウの提供や具体的な支援、オープンアクセス推進にもつながる APC(Article Processing Charge)関連業務への関与などがあげられる。研究支援機能を充実させていくためには、つねに利用者の視点に立って、研究者が図書館に求めるサービスとは何かを考え、それを実現していくことが重要であろう。

3 保存・情報発信機能

附属図書館の蔵書数は厳しい予算状況のなかで順調に増加し、目録データの遡及入力事業も計画的に進められているなど、附属図書館の保存機能については一定の評価ができる。蔵書・コレクションの充実に関しては、退任教員などからの寄贈をうまく活用して研究書のリサイクルをはかる試みを行っている図書館室があり、収蔵スペースの確保や資料の整理・登録のための費用、目録入力者のスキルなどが課題となるケースが見込まれる。そのような課題を克服しながら、研究費で購入されて主に研究室で利用されているために、図書館の蔵書(資産)としては未登録の研究書を、蔵書として取り込むことを検討する余地はあると思われる。また、遡及入力計画については、これまでの成果を踏まえながら今後の見通しを立てた上で、平成 27(2015)年度以降の第三期全学遡及入力計画が策定される見込みである。

附属図書館全体の保存機能を担う施設としては、柏図書館の自動化書庫がある。この自動化書庫は、100 万冊を収蔵可能で、全学の自然科学系雑誌のバックナンバーセンター機能を有している。図書館室からの雑誌の移管作業は年度ごとの計画通り順調に行われて、収蔵された資料は全学的に利用されており、よく機能していると評価できる。ただし、自動化書庫の収蔵能力は単行書を基準としているので、製本雑誌に換算すると 60 万冊程度で満杯となる。現時点では、今後およそ 15~20 万冊を収蔵できる状態であり、年間で 1~2 万冊の入庫が見込まれることから、10 年程度で満杯になると予想される。移管元の図書館室から発行後数年経過した雑誌の定期的な移管が進められて入庫冊数が増加するのを見越して、収容能力を上げるために第Ⅲ期工事計画の策定を引き続き進めていく必要がある。また、新図書館計画で設置される予定の総合図書館の自動化書庫は、人文社会科学系雑誌のバックナンバーセンターとして機能することになっており、柏図書館の自動化書庫と相互に補完しながら、附属図書館の保存機能を強化するようになることが期待されている。

一方で、附属図書館の情報発信機能に関しては課題が多い。これまで情報システム部情報基盤課に所属するデジタル・ライブラリ担当(平成 24(2012)年 6 月までは、情報基盤センター図書館電子化部門デジタル・ライブラリ係)との連携・協力によって貴重資料の電子化が進められてきたが、附属図書館では電子化のための予算がほとんど確保できない上に、情報システム部においても予算縮小により電子化のための費用を拠出できなくなっている。資料の電子化をより適切かつ計画的に進めていくために、電子化対象資料の選定や財源確保を含むさまざまな課題について、附属図書館として継続的に検討していかなければならない。さらに、所蔵資料の電子化にとどまらず、今後は電子化された資料をどのように提供していくかについての検討が重要になってくるだろう。換言すれば、ハイブリッド図書館システムを、学内外の関連部署との連携をはかりながら、全学的な知識基盤の整備の流れにそって構築していくことが大きな課題である。附属図書館ホームページへのアクセス回数の減少については、利用者の情報行動やアクセスポイントが多様化しているのやむを得ない点もあると思われるが、附属図書館の広報や通知のためのチャンネルを確保する観

点からも、さらなる工夫が望まれる。

また、機関リポジトリについては、コンテンツ件数、ダウンロード利用件数ともに全国有数のレベルではあるものの、東京大学の広範囲で多様性に富んだ研究成果を十分に発信しているとは言いがたい。コンテンツの原本を作成している各部局からこれまで以上に理解と協力を得ることで、より多くの分野の研究成果を登録することができるだろう。博士論文は、平成 24(2012)年 3 月に文部科学省高等教育局長から通知された「学位規則の一部を改正する省令の施行等について」に従って、平成 25(2013)年度以降に授与される博士の学位について当該の博士論文はインターネットの利用による公開(機関リポジトリによる公開が原則)を行うことになった。本学において博士論文の公開を進めていくためには、機関リポジトリが一定の役割を果たすことが期待されており、今後は学内の関係部署(特に学務、知財や研究推進関連の部署)との連携・協力をより一層進めていくことになる。

4 社会貢献・社会連携

オープンキャンパスや一般公開において、キャンパスや部局の特性を活かした、各図書館室による施設見学、所蔵資料の常設・企画展示などの取り組みは、一般市民には馴染みの薄い大学施設や学術研究資料を身近に感じられるものにする社会貢献事業として位置づけられる。

総合図書館、駒場図書館による蔵書をもとにした常設展示、本学の行事と連携した特別展示や記念講演会に加え、附属図書館として平成 23(2011)年度からの現在の図書館と新図書館構想への理解を深める目的で開始されたブックトーク、シンポジウム、セミナーなど、多彩で数多くの催し物が実現されることは、学内外に対して附属図書館の活動を顕在化するという点で大いに意義がある。

なお、柏図書館においては、積極的に多彩な事業が展開されている。講演会、ビブリオバトルなどは、資料だけでなく大学の知的資源を社会へ還元する普及活動事業として、「わくわくミニコンサート」(年2回)や上映会(年2~3回)の定期的開催、平成 24(2012)年度からの地域の市立図書館や私立大学図書館との連携企画(ビブリオバトル、市民バスツアーなど)は、図書館の館種を超えた市民参加型の社会連携事業として、それぞれ高く評価できる。

また、平成 20(2008)年度に発足した「柏図書館友の会」は、着実に図書館サービスを拡大し、地域社会へ大学図書館が持つ学術資源の提供を進めている。この事業については、国が生涯学習社会の実現を目指し、社会一般に生涯学習が広まっている現在、柏図書館がその専門性の高い蔵書などと図書館職員によるサービス提供で、地域市民の生涯学習を支援している点が特記できる。しかし、毎年の総会開催のほか、会報の発行や各種催事の企画・開催が、現在までのところ図書館職員による事務局主導であるため、今後は、友の会の目的を踏まえ、会員の運営への参画を徐々に進めていくことが望まれる。入会員数を順調に伸ばす一方、キャンパス内セキュリティの確

保, ゴーニングなどの図書館内の学習環境の設定, 大学図書館に不慣れな利用者への対応などが, 図書館職員のストレスや東京大学構成員に不便を感じさせる原因とならないよう, 友の会会員への設立目的などの周知徹底など, 同会の運営について, 今後も適宜検討を続けていく必要がある。その他にも, 駒場キャンパスの「駒場友の会」(平成 16(2004)年 3 月設立)による, 駒場図書館への学生用図書費の支援は, 大学図書館を支えるひとつの形態として評価できる。

これまでの実績に加え, 新図書館構想に係る全学で取り組む企画や展示の機会が, 今後も増加することが予想される。このことを踏まえ, 先駆的な実践を積んだ図書館室の経験を蓄積し, 全体で共有するネットワークの構築や, 部局を超えて連携して作業する共通経験の機会を, さまざまなかたちで作っていくことが課題になる。

なお, 他の大学図書館との連携・協力については, 国立大学図書館協会及び国公立大学図書館協力委員会の中心的なメンバーとして, 大学図書館全体のさまざまな課題の解決に積極的に関与し, 大学図書館全体の発展に寄与している。特に, 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)への人的な貢献は, 大学図書館界のリーダーとして一定の役割を果たしているという点で評価できる。また, 部局図書館室のなかには, 外国雑誌センター館や全国共同利用機関として, 全国的に研究のための学術情報基盤を確立する上で大きな役割を果たしている図書館室があることも特筆にあたいする。さらに, 国際的な連携・協力としては, ソウル大学校中央図書館との提携や IARU Librarians Meeting への参加などがあげられるが, 十分とは言えないのが現状である。

5 組織・運営

図書行政商議会は, 附属図書館全体の基本政策について審議・決定するという役割を一定程度果たしており, 特に全学共通経費についての協議においては全学的な調整機能を大いに果たしたと評価できる。しかしながら, キャンパス部会は附属図書館運営委員会にキャンパス代表の委員を選出する母体としての役割に事実上とどまっている。一方で, 附属図書館運営委員会については, 設置された平成 17(2005)年度は年7回開催されていたものの, 年々開催頻度が低くなり, 小規模な会議体でより機動的に案件を審議して商議会上程していくという, 当初求められた役割を必ずしも果たしていない。

年々職員数が削減され, かつ削減計画が部局ごとに実施されているため, 図書館室の配置人数にはアンバランスが発生し, 特に小規模な図書室では日々の運営に困難が生じかねない状況になっている。図書館室が組織的にも物理的にも分散したままの現在のような状況では, 図書館機能の高度化を進めていくことは困難であると言わざるを得ない。部局横断的な職員の課題検討グループの活動も, 職員が同一の事務機構に属していないため, 機動性の確保や業務としての定着化には制約がある。

予算・経費の面では, 全学共通経費という枠組みの構築が, 東京大学の電子ジャーナルなどの

学術情報基盤整備にとって果たした役割は非常に大きく、限られた予算で利用者へのサービス低下を阻むことができたこと、高く評価できる。しかしながら、第 2 期(平成 24(2012)～27(2015)年度)はこの枠組みを維持できる見通しとはいえ、来る第 3 期(平成 28(2016)年度以降)の制度設計については、電子リソースの恒常的な値上げや海外サーバから提供される製品への消費税課税導入などもあって、財源確保は予断を許さない状況にある。また、図書館運営費が毎年縮小するなかで、附属図書館がこれまで以上のパフォーマンスを維持・向上させるには、図書館室の統合あるいはサービスポイントの集約を視野に入れた組織・運営の見直しが強く求められる。

全学資料購入集中処理は、業務効率化と調達経費節減において効果的な取り組みであったと評価できる。しかし、運営費交付金の減少などに伴い、図書館資料購入費そのものが減少しており、本システムの取扱額も頭打ちとなっている。本システムへの参加書店数は変わっていないが、円安や物価上昇などの外的要因もあって、スケールメリットが失われつつあるのが現状である。

図書資産の実査は毎年着実に行われており、実査方法の一部見直しによって、作業の負担軽減を可能にしたことは評価できる。しかしそれでも、今後も増加し続ける蔵書を対象に毎年実査を行っていくには、業務上の負担が過重となるため、固定資産管理という会計的な点を考慮しつつ、実査対象や実査方法をさらに継続して見直し・改善を行っていく必要がある。また、遡及入力がかつて全学的に完了しておらず、図書館システムに登録されたデータを利用して実査を行うことができない資料群が存在することから、すみやかな遡及入力を遂行することが求められる。

施設の整備は、安心安全のための耐震改修、利便性向上のための老朽化対策が着実に進められている。一方、震災後、本学では特にエネルギーの利用が厳しく抑制されるようになり、利用環境への影響も少なからず生じている。今後も引き続き省エネルギーと快適な利用環境の確保のバランスに配慮した施設整備を進めていかねばならない。

第4部 まとめと今後の課題

東京大学には、本郷キャンパスに総合図書館、駒場キャンパスに駒場図書館、そして柏キャンパスに柏図書館がある。これらをキャンパス拠点図書館とし、さらに各研究科・学部や研究所などに計32の部局図書館室がある。これらを総称したものが「東京大学附属図書館」である。

東京大学においては伝統的に部局自治が強く作用していた。図書館についても、1960年代初頭の岸本改革などで全学的な連携の動きはあったが、総合図書館を別格として基本的に部局図書館を中心とする考え方が強かった。これらが大学法人化や3キャンパスそれぞれの整備を契機として、平成16(2004)年に制定された「附属図書館基本規則」により、上記の図書館室よりなる「共働する一つのシステム」として再出発したのである。それから10年余の歳月が過ぎて、附属図書館がどのようになったのか。本報告で行った自己点検評価をまとめておこう。

【自己点検評価の概要】

第1部では、過去の附属図書館の学内的位置づけとこれまで行ってきた点検評価について述べた。特に、法人化後の「東京大学憲章」(平成15(2003)年)においては、図書館を明記しつつ全学的視点で学術情報を整備することが述べられ、また、上記の「附属図書館基本規則」(平成16(2004)年)では、具体的に全学的図書館整備の諸項目があげられ、さらに「東京大学図書館憲章」(平成17(2005)年)には、5か条にわたって附属図書館の使命が列挙されていることを確認している。また、附属図書館としても毎年の年次報告で活動状況を報告しており、これが以下の報告の土台となっていることを述べた。

第2部では、ここ6年間の活動を、学習支援機能、研究支援機能(学術情報基盤の整備)、保存・情報発信機能、社会貢献・社会連携、組織運営の5項目に分けて、それぞれの項目を「現況」の分析と「改善状況」の観点から点検を行い、活動の概要を記述した。最後に、平成25(2013)年10月に行ったWebを利用した利用者アンケート調査の結果の概要を紹介している。

第3部では、第2部の現況と改善状況の分析にもとづき評価を行った。まず学習支援機能から言えば、図書館の来館利用やレファレンスサービスなどについては電子的なリソースやオンラインサービスの発展から非来館型のサービスへの転換が進んでおり、それに伴い来館者減少が見られることを確認している。だが同時に、多様な利用者のための支援やガイダンス、シラバス掲載図書購入など、直接利用のためのさまざまなサービスを行ってきたことは評価している。

研究支援機能については、この期間中に、全学共通経費によって基盤的学術雑誌などを整備することを行い、ジャーナルや学術データベースを全学のものとして整備することが可能になったことが最大のポイントとしている。

保存・情報発信機能としては、以前から継続して目録データの遡及入力事業や柏図書館の自動化書庫への自然科学系雑誌のバックナンバー移管、デジタルコンテンツのネットによる発信な

どを行ってきたが、財源の問題があり十分に展開したとは言えないという評価がなされている。社会貢献・社会連携についても、オープンキャンパスや従来からの展示会、新図書館関連のイベントなどは行ったが全体として組織的な展開があったわけではないという分析である。

最後に図書館の組織・運営であるが、附属図書館運営委員会の開催頻度の低下、職員数の削減と部局によるアンバランス化を指摘し、さらに、全学共通経費による予算・経費の安定化が見られる一方、図書館運営経費は全体として縮小していることが指摘されている。

以上、自己点検の結果として、学術雑誌の全学的な整備体制の確立など部分的に以前より進展したことはあったが、全体的に見ると「共働する一つのシステム」に向けての歩みは遅々としてあまり進んでいないことが明らかになった。

【共働化しにくい要因】

その要因としては次の4点を指摘することができる。

一つは、全学的な位置づけが曖昧なことである。法人化以前、図書行政商議会は、各年度当初の第1回目の会議には総長が必ず挨拶をする特別な全学組織であり、附属図書館長は東京大学のなかで数少ない管理職とされていた。しかしながら法人化を契機に、附属図書館は経営に関して総長＝役員会の指示に従う研究教育支援部局となり、学内組織としては全学センターと同格に位置づけられ、現在に至っている。

二つ目には、経営組織としての一体化が不足していることである。図書館は、全学的なキャンパス拠点図書館と各部局図書館室に分けられ、それぞれが独立した組織である。附属図書館長は全学的に位置づけられてはいるが専任ではないし、それ以外の図書館に関わる教員はそれぞれ所属する部局の役職として任務をこなしているにすぎない。

三つ目には、上記に関わって財務及び人事的に下降線をたどっていることである。法人化以降、運営費交付金の各部局への配分額は年々削減され、また、正規教職員ポストも削減されている状況があるなかで、学内の主要組織(研究教育事業部局)は自前で活動資金を確保し、また、外部資金で教職員を雇用することによって、発展的な状況をつくっていくことを要求されてきた。しかしながら、支援部局である附属図書館の外部資金はわずかで、財務・人事いずれについても自前の確保は困難である。部局図書室によってはうまくいっているところもあるが、特にキャンパス拠点図書館については困難な点が少なくない。

四つ目に、新しい技術状況において電子化とネットワーク化が急速に進展するなかで、学術的なリソースに大きな変化が生じ、当然ながらこれを利用する図書館においても、来館型の図書館からコンテンツ提供型図書館への変化が生じていることである。これは、いまだ進行中であり、最終的にどのようなかたちになるのか不明であることが、さまざまな問題を引き起こしている。

【今後の課題】

これらに対して、今後の図書館がどのような対策を立てながら状況を克服し、また、新しい型の

サービス体制を打ち立てていくべきかについて述べておこう。上記の要因分析の順序を逆にして、具体的なサービス面と制度的な面について述べておくことにする。

サービス面からは、図書館が電子的リソースへの変化に対応して、コンテンツ提供型図書館への移行は必然的なものであり、これに積極的に対応する必要がある。その際に二つの考え方が必要である。一つは、物理的なリソースから電子リソースへの変化を後追いするだけでなく、電子化の過程を積極的にサービス体制に組み込み、将来的にくる全面的な電子図書館的状况を先取りする努力を行うべきである。たとえば、まだ終了していない多言語資料の MARC 化の推進はアジア研究図書館をつくる際に必須のものであるし、コンテンツそのものの電子化は権利処理の問題があるので基本的にはナショナルな問題ではあるが、東京大学が唯一の所蔵者である前近代及び近代初期のリソースについてはどんどん進めるべきである。

もう一つは、にもかかわらず物理的な資料と場所の重要性を評価すべきである。物理的資料の永年保存は学術機関だからこそ進展されるべきである。また、建物、フロア、閲覧席、書架、書庫、カウンター、専門的なサービスといった従来型の図書館サービスの諸要素はあらためてその価値が見直されているところであり、これはあらためて「場所としての図書館」と呼ばれることがある。ラーニングコモンズのようなグループディスカッションが可能なスペースが図書館に設置される傾向があるのも、図書館が教育研究のための開かれた場所として認知されているからであろう。

制度面からは、電子化や場所としての図書館を整備するためには多額の費用が必要になり、また新しいことを実施するので、専門的な図書館員の人的な手当でもいっそう必要になる。そうすることによって全学の図書館について一体的な運営をはかることが可能になり、最終的には、それによって全学的な位置づけを現在よりも見えるものにしていくことが期待される。

幸いなことに、現総長下で推進されている新図書館構想はこうした全学的課題を解決するのによい契機となるだろう。総合図書館前広場の地下に300万冊規模の自動化書庫をつくり物理的保存場所を確保すること、その上にラーニングコモンズを設置すること、そして、総合図書館を改築して全学が協力してアジア研究図書館の新設をはかることを中心としている。また、平成25(2013)年度に、附属図書館に専任の教員組織をつくるのが全学的に認められたことで、こうした新しい事業を行う上での基盤がつくれつつある。

これは総合図書館の改革を中心とするものであるが、同時に全学的な視点からの保存スペースの確保やアジア研究図書館の設置を推進するものである。これにより、東京大学全体の図書館に対する関心が強まって、「共働する一つのシステム」としての図書館構築に向けての動きにつながっていくことが期待される。特に、駒場と柏のキャンパス拠点図書館の整備は続けての重要な課題となるはずである。

これは、法人化以降に東京大学が取り組んだ初めての図書館改革プロジェクトである。同時に、この改革は、東京大学の知的基盤整備の全学的な視野からの再検討の中での図書館の位置の再定義も求めている。この流れをどのようにうまく活かせるかが図書館発展の鍵となる。

第5部 資料編

1 自己点検評価実施委員会委員

自己点検評価実施委員会

古 田 元 夫	附属図書館長（委員長）
酒 井 哲 哉	駒場図書館長
雨 宮 慶 幸	柏図書館長
根 本 彰	附属図書館研究開発室員（教育学研究科）
堀 浩 一	附属図書館研究開発室員（工学系研究科）
高 田 裕 成	図書館行政商議会委員（法学政治学研究科）
田 畑 仁	図書館行政商議会委員（工学系研究科）
大 津 透	図書館行政商議会委員（人文社会系研究科）
畑 中 研 一	図書館行政商議会委員（生産技術研究所）

自己点検評価ワーキンググループ

関 川 雅 彦	事務部長
高 橋 努	総務課長
木 下 聡	情報管理課長（主査）
北 村 照 夫	情報サービス課長（副主査）
市 村 櫻 子	柏地区図書課長
増 田 晃 一	教養学部等図書課長
吉 田 左貴子	情報管理課専門員
三 浦 圭 子	情報サービス課専門員
合 田 美恵子	教養学部等図書課専門員
村 上 晋 司	総務課企画渉外係長
花 岡 幸 大	柏地区図書課情報サービス係長
坪 陽 子	総務課主査（事務担当）

2 用語解説

アクティブ・ラーニング

- ・・・教える側の一方的な講義形式による教育とは異なり，学ぶ側の主体的・能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。発見学習，問題解決学習，調査学習などをはじめ，グループ・ディスカッションやディベート，グループ・ワークなどがその方法とされる。

オープンアクセス

- ・・・学術雑誌に掲載された論文をはじめとする学術情報を，インターネットを通じてだれでも無料で閲覧可能な状態にすること，またそれを実現するための運動。1990年代に，学術雑誌の高騰によって学術情報の入手が困難になったこと，インターネットや電子ジャーナルが普及したことを受けて生じてきたとされる。

機関リポジトリ

- ・・・大学や研究所などの機関とその構成員が創出した知的成果を電子的に登録・保存し，無料で提供するためのインターネット上の保存書庫。教育研究成果を発信することによる機関のアピール，機関外への情報開示，知的生産物の長期的な保存など，学術情報の円滑な流通のために，大きな役割を果たしている。

コンソーシアム

- ・・・一般には，共同の目的にそった活動を行うための，複数の成員（個人，企業，団体など）からなる団体のこと。大学図書館においては，電子ジャーナルの契約条件を交渉したり，共同で購入したりするための，複数の機関が参加する連合体を指す。国内の例としては，500館以上の国公私立大学図書館が加入する大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）があげられる。

情報リテラシー教育

- ・・・情報を主体的に入手したり，活用したりする能力を育成するための教育のこと。情報の探索，評価，利用，発信といった一連のプロセス，データベースの検索法などが含まれる。

相互貸借（ILL）

- ・・・図書館どうしが，互いの所蔵資料を必要に応じて相互に貸借すること。利用者が必要とする資料が自館では提供できない場合に，他の図書館の協力を得て提供する図書

館間の協力システムで、ILL (Interlibrary Loan) と呼ばれる。具体的には、資料のコピーを所蔵館から取り寄せる文献複写、資料の現物を所蔵館から取り寄せる現物貸借などがあげられる。

全学共通経費

- ・・・東京大学の全学的な学術研究教育活動の基盤を支える学術雑誌、電子ジャーナル、データベース及び大型コレクションについて、大学として一括して購入するための経費で、本部から措置される全学的資金と部局拠出金とからなる。この制度は、平成 19 (2007) 年度から開始されており、現在では平成 23 (2011) 年度までの第 1 期が終了し、第 2 期 (平成 24 (2012) ~27 (2015) 年度) の期間中である。

全学資料購入集中処理

- ・・・図書の購入に係る支払事務手続きを全学的に集中処理し共同購入することで、大学と書店の事務を効率化し、大幅値引きを実現するシステム。東京大学において、平成 16 (2004) 年度に開始され、全学的な図書購入費の削減、調達の効率化に大きな成果をあげている。

ディスカバリーサービス

- ・・・図書館が提供する書籍や雑誌、電子ジャーナルなどのさまざまな学術情報を、同時に一つのインターフェイスで検索できるサービスのこと。利用者が情報を「Discovery (発見)」するのを支援するという意味がある。

ハイブリッド図書館

- ・・・紙媒体の書籍や雑誌の所蔵を中心とする従来型の図書館と、電子的な情報へのアクセスを提供する電子図書館の双方の機能を兼ね備えた図書館のこと。ハイブリッド図書館では、紙と電子それぞれの資料の特性を活かして、これまでにないような新しいサービスを提供することが期待されている。

バックファイル

- ・・・契約時点より前に発行された電子的なコンテンツのことで、主として電子ジャーナルのバックナンバーのことを指す。アーカイブと同じ意味で使われることも多い。もともと電子形態で刊行されたものと、紙媒体で生産されたものを電子化したものがある。

目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL)

- ・・・我が国の大学図書館などの所蔵資料を活用するために、国立情報学研究所 (NII) が運用・管理しているシステムで、総合目録データベースを作成するための NACSIS-CAT と、図書館間での資料の相互利用を支援するための NACSIS-ILL とから構成されている。

ラーニングコモンズ

- ・・・学生が、単独で自習するのではなく、グループで議論を進めていくような学習スタイルを可能にするような空間。電子情報や図書・雑誌などのさまざまな情報資源へのアクセスを可能にし、その活用を支援する図書館職員によるサービスなどによって、学生の主体的・能動的な自学自習をサポートできるような環境が提供される。

ライティング・サポート

- ・・・主として教員や大学院生が学生に対して、大学生にとって必須のスキルであるレポートや論文の作成力を養うために、添削や書き方の指導を行うこと。

レファレンス

- ・・・利用者の情報探索や調査研究課題に対して、適切な資料や情報を提供することにより、図書館職員が直接的・間接的に支援するサービスのこと。資料の所蔵調査や探索方法の提示、図書館利用ガイダンスなどサービスの種類や範囲は多岐にわたる。

ASK サービス

- ・・・東京大学附属図書館のオンラインレファレンスサービスで、利用者は Web から参考調査質問を申し込み、メールでその回答を得ることができる。

APC

- ・・・Article Processing Charge の略称。「論文投稿料」や「論文出版加工料」などの訳語があてられる。オープンアクセス雑誌に論文を掲載する際に、著者から出版社に支払われる。査読や原稿の整理、サーバーでの論文管理などの出版過程の各段階で発生する費用を著者が負担することでオープンアクセスを実現する仕組みになっている。

e-DDS

- ・・・Electronic Document Delivery Service の略称。研究室などの PC からインターネットを利用して読みたい文献を所蔵する図書館へ直接申し込み、文献全文を Web 上で閲覧できるサービス。所蔵図書館は、文献のコピーを取って学内便で送る代わりに、

PDF化した文献ファイルを学内のサーバにアップロードし、申し込み者に直接そのURLをメールで知らせる。従来の文献複写申し込みに比べて文献入手までの時間が短く、図書室に行く必要もないというメリットがある。

GACoS (ガコス)

- ・・・ Gateway to Academic Contents System の略称。東京大学において電子的な学術情報にアクセスするためのゲートウェイ。学内外でアクセスできるデータベース・電子ジャーナルの検索、利用ガイド、情報探索ガイダンスの申し込みなどが利用できる。

IARU

- ・・・ International Alliance of Research Universities の略称。平成 17 (2005) 年に設立された東京大学を含む世界トップクラスの 10 大学からなる、将来の世界的リーダーを養成できる研究型大学による連合。平成 24 (2012) 年からは、図書館に関する課題について協議するための University Librarians' Meeting が開催されており、東京大学附属図書館も参加している。

MARC

- ・・・ Machine Readable Catalog (Cataloging) の略称。日本語では、「機械可読目録」と呼ばれる。図書目録に記載される情報を、一定のフォーマットによって、コンピュータで直接処理できるような媒体に記録したもの、またはそのように記録することを指す。

OPAC (オンライン蔵書目録)

- ・・・ Online Public Access Catalogue の略称。図書館が所蔵する図書や雑誌などの資料をオンラインで検索できる目録データベース。タイトルや著者名などの書誌情報のほかに、資料が配架されている場所や貸出中かどうかの確認もできる。

VPN

- ・・・ Virtual Private Network の略称。公共ネットワークから専用ネットワークのような秘密や安全が保証された通信を実現するための仕組み。この仕組みを使うことで、学内アクセス限定の電子ジャーナルやデータベースの一部を、自宅や出張先などの学外からもアクセスできるようになる。

3 利用者アンケート結果報告

実施期間： 平成25年10月2日（水）～10月16日（水）

対 象： 本学学生

総数：28,113人（平成25年5月1日現在）

内訳：教養学部前期課程学生	6,590人
学部学生	7,423人
大学院生（修士課程）	6,583人
大学院生（専門職学位課程）	864人
大学院生（博士課程）	5,976人
研究生・聴講生	562人
その他	115人

回答方法： ウェブフォームへの入力（<http://goo.gl/envv3F>）

広 報： 附属図書館ウェブサイトへの掲載と学生へのメール連絡
メール送信内訳

教養学部前期課程学生	6,467人
学部学生	7,372人
大学院生	13,325人

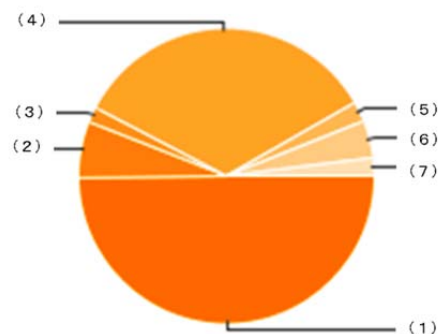
回答総数： 2,172件

内訳：教養学部前期課程学生	422人
学部学生	531人
大学院生（修士課程）	564人
大学院生（専門職学位課程）	76人
大学院生（博士課程）	546人
研究生・聴講生	27人
その他	6人

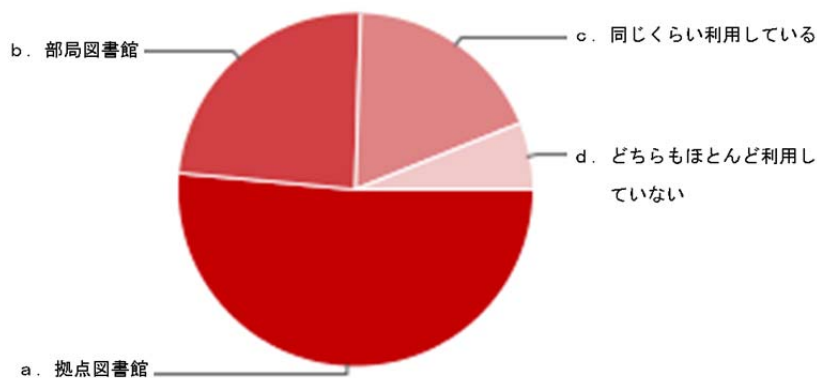
1 図書館の来館利用について

1.1 普段、学習・研究を行っているキャンパスを教えてください。(いずれかを選ぶ)

(1) 本郷 (本郷キャンパス)	1081	50%
(2) 本郷 (弥生キャンパス)	134	6%
(3) 本郷 (浅野キャンパス)	37	2%
(4) 駒場 I キャンパス	740	34%
(5) 駒場 II キャンパス	48	2%
(6) 柏キャンパス	89	4%
(7) その他	43	2%



1.2 キャンパス拠点図書館と所属の部局図書館のどちらを主に利用していますか？

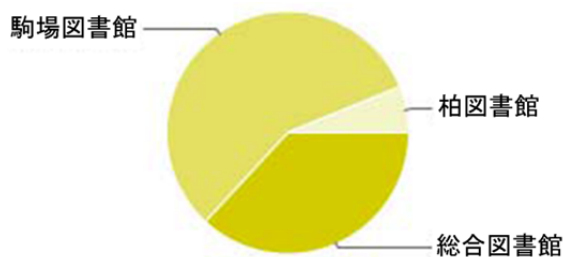


a. 拠点図書館 1118 51%

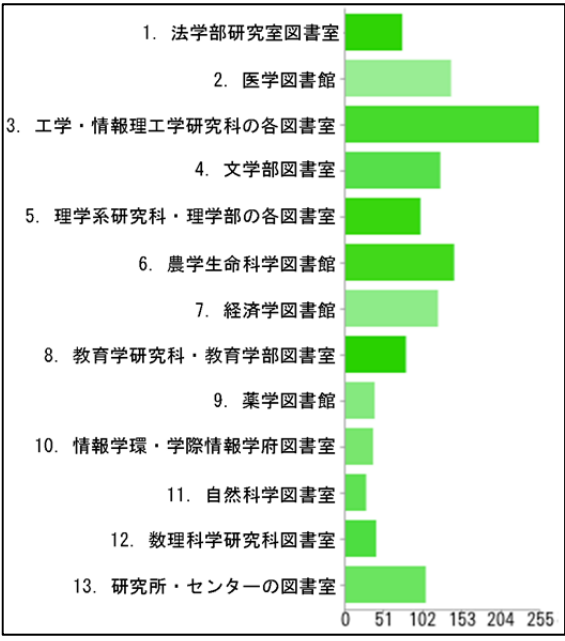
【内訳】・総合(412 37%)

・駒場(636 57%)

・柏 (69 6%)



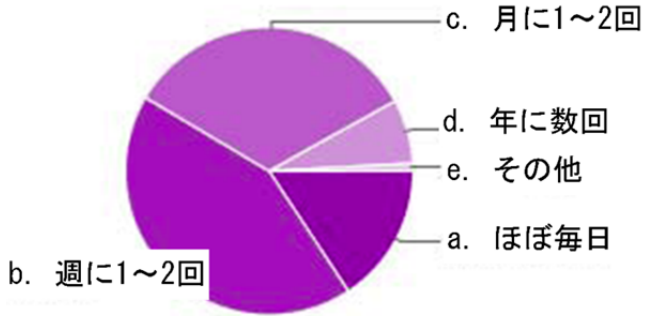
- b. 部局図書館 521 24%
- c. 【内訳】
 1. 法学部研究室図書室 74 6%
 2. 医学図書館 138 11%
 3. 工学・情報理工学研究科の各図書室 253 20%
 4. 文学部図書室 124 10%
 5. 理学系研究科・理学部の各図書室 98 8%
 6. 農学生命科学図書館 142 11%
 7. 経済学図書館 121 9%
 8. 教育学研究科・教育学部図書室 79 6%
 9. 薬学図書館 38 3%
 10. 情報学環・学際情報学府図書室 36 3%
 11. 自然科学図書室 27 2%
 12. 数理科学研究科図書室 40 3%
 13. 研究所・センターの図書室 105 8%



- d. 同じくらい利用している 400 18%
- e. どちらもほとんど利用していない 133 6%

1.3 選択した図書館の利用頻度はどのくらいですか？1.2でc. 同じくらい利用しているを選択した方は両方合わせてどのくらい使っているのか、回答してください。

- a. ほぼ毎日 319 16%
- b. 週に1~2回 870 43%
- c. 月に1~2回 678 33%
- d. 年に数回 146 7%
- e. その他 18 1%



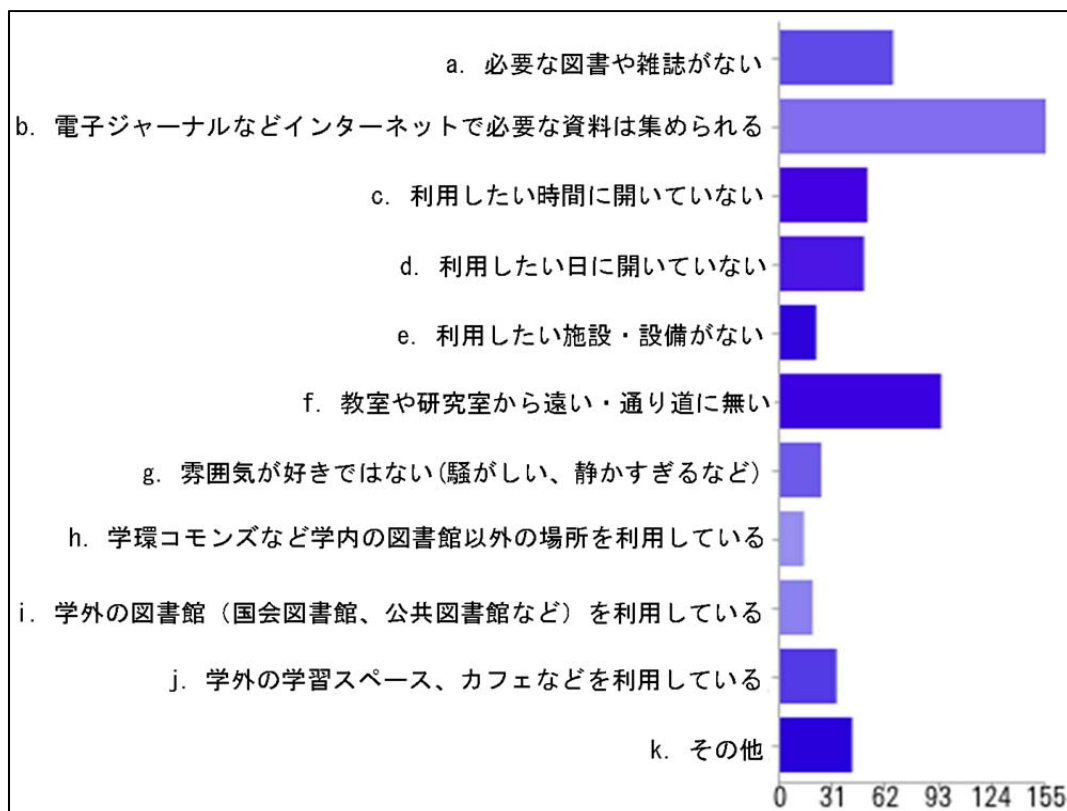
(【抜粋】(a)試験前のみ毎日 (b)学期中は平日のほぼ毎日、夏季休業等休業期間中はほとんど利用しない (c)月数回のときもあれば、数ヶ月使わないことも。(d)テスト期間に利用)

1.4 東京大学の図書館をあまり利用しない理由を教えてください？（複数回答可） ⇒ 1.6

へ

a. 必要な図書や雑誌がない	66	12%
b. 電子ジャーナルなどインターネットで必要な資料は集められる	155	27%
c. 利用したい時間にかいていない	51	9%
d. 利用したい日にかいていない（土日祝日、休暇中など）	49	9%
e. 利用したい施設・設備がない	21	4%
f. 教室や研究室から遠い・通り道に無い	94	17%
g. 雰囲気が好きではない(騒がしい、静かすぎるなど)	24	4%
h. 学環コモンズなど学内の図書館以外の場所を利用している	14	2%
i. 学外の図書館（国会図書館、公共図書館など）を利用している	19	3%
j. 学外の学習スペース、カフェなどを利用している	33	6%
k. その他	42	7%

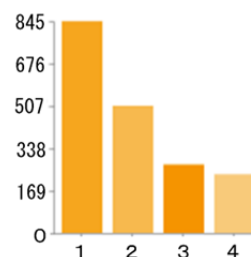
：（【抜粋】（a）部屋で1人で勉強するのが好きなので（b）研究室の方が集中できる（c）休学中で遠方に住んでいるため利用が難しい（d）飲食スペースが限られている（e）学部を卒業した大学の図書館も利用でき、その方が自宅から近く、快適。飲み物の持ち込みもOK（f）換気が悪い（g）研究室に必要な本は揃っている）



1.5 キャンパス拠点図書館の利用方法と充足度についてお伺いします。複数の拠点図書館を利用している場合は、最もよく使う館について回答してください。

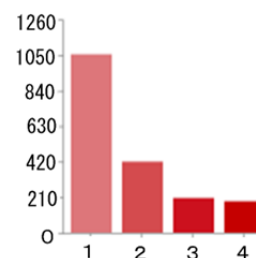
a-1 学習や研究に必要な図書や雑誌（電子ジャーナルを含む）を読む

- (1) あてはまる 844 45%
- (2) どちらかといえばあてはまる 507 27%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 273 15%
- (4) あてはまらない 234 13%



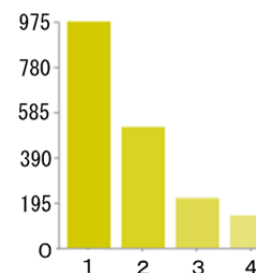
a-2 学習や研究に必要な図書や雑誌を借りる

- (1) あてはまる 1052 57%
- (2) どちらかといえばあてはまる 419 23%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 205 11%
- (4) あてはまらない 185 10%



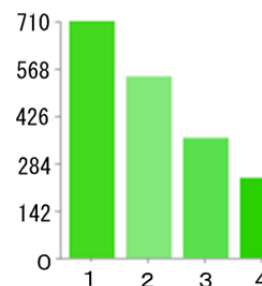
a-2-1 一回の貸出冊数は適当である

- (1) あてはまる 974 53%
- (2) どちらかといえばあてはまる 520 28%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 214 12%
- (4) あてはまらない 139 8%



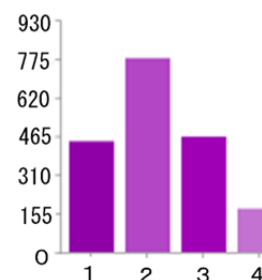
a-2-3 一回の貸出期間は適切である

- (1) あてはまる 710 38%
- (2) どちらかといえばあてはまる 544 29%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 360 19%
- (4) あてはまらない 240 13%



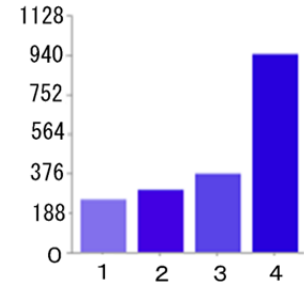
a-3 学習や研究に必要な図書や雑誌は揃っている

- (1) あてはまる 443 24%
- (2) どちらかといえばあてはまる 776 42%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 462 25%
- (4) あてはまらない 174 9%



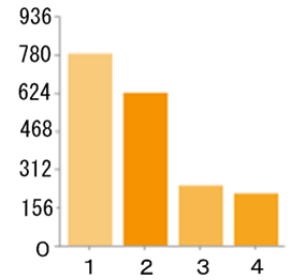
a-4 新聞や一般的な雑誌を読む

- (1) あてはまる 250 13%
- (2) どちらかといえばあてはまる 296 16%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 373 20%
- (4) あてはまらない 941 51%



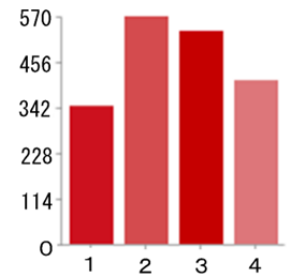
b-1 課題やレポートの資料を集めたり、執筆したりする。

- (1) あてはまる 782 42%
- (2) どちらかといえばあてはまる 622 33%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 244 13%
- (4) あてはまらない 212 11%



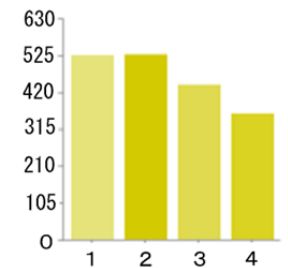
b-1-1 十分な台数のパソコン、コピー機やプリンタがある。

- (1) あてはまる 346 19%
- (2) どちらかといえばあてはまる 570 31%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 533 29%
- (4) あてはまらない 410 22%



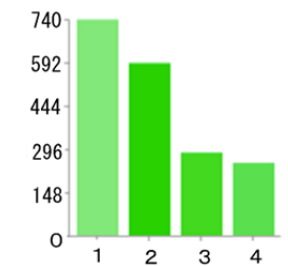
b-1-2 有線・無線 LAN が利用できる

- (1) あてはまる 524 28%
- (2) どちらかといえばあてはまる 526 28%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 440 24%
- (4) あてはまらない 358 19%



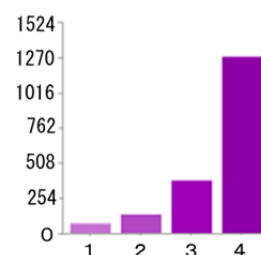
b-2 集中して個人学習する

- (1) あてはまる 738 40%
- (2) どちらかといえばあてはまる 589 32%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 283 15%
- (4) あてはまらない 248 13%



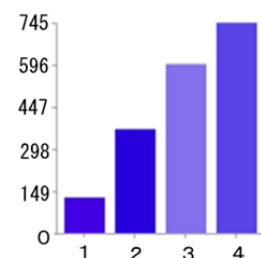
b-3 グループで学習・研究を行う

- (1) あてはまる 69 4%
- (2) どちらかといえばあてはまる 134 7%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 379 20%
- (4) あてはまらない 1271 69%



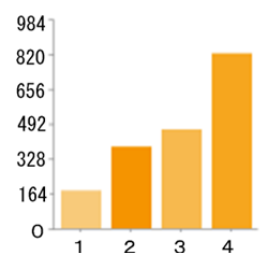
b-3-1 グループ学習用の部屋やスペースは利用したいときに使える

- (1) あてはまる 126 7%
- (2) どちらかといえばあてはまる 367 20%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 598 33%
- (4) あてはまらない 744 41%



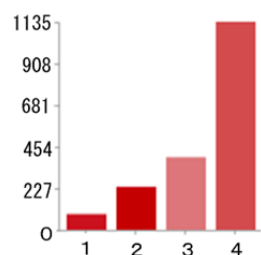
c-1 図書館職員に質問・相談する

- (1) あてはまる 178 10%
- (2) どちらかといえばあてはまる 384 21%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 465 25%
- (4) あてはまらない 822 44%



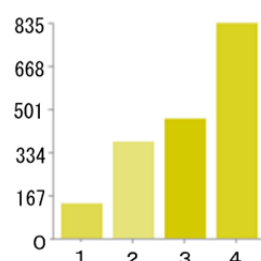
c-2 ガイダンス、講習会などに参加する

- (1) あてはまる 86 5%
- (2) どちらかといえばあてはまる 234 13%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 396 21%
- (4) あてはまらない 1135 61%



c-2-1 ガイダンスや講習会はその後の学習や研究に役立った

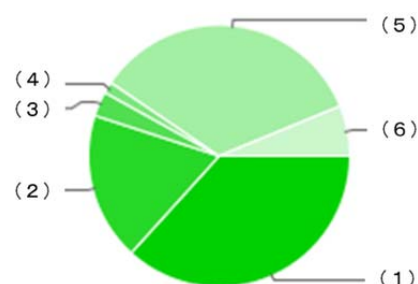
- (1) あてはまる 135 7%
- (2) どちらかといえばあてはまる 374 21%
- (3) どちらかといえばあてはまらない 463 26%
- (4) あてはまらない 833 46%



1.6 附属図書館全体として提供している来館型サービスの満足度についてお伺いします。

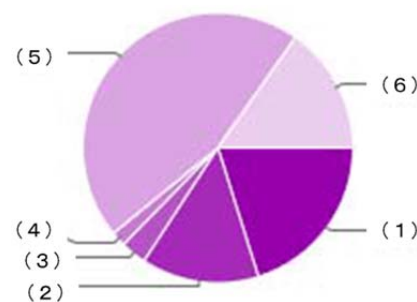
c-1 他のキャンパスから図書の取り寄せができる

(1) 満足	793	37%
(2) どちらかといえば満足	394	18%
(3) どちらかといえば不満	66	3%
(4) 不満	31	1%
(5) 利用したことがない	741	34%
(6) この質問で初めて知った	134	6%



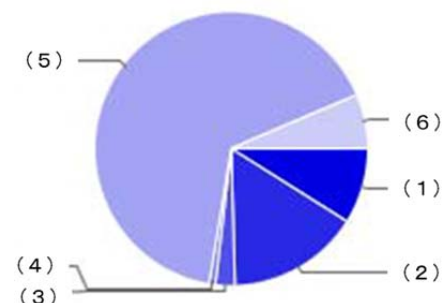
c-2 他のキャンパスから雑誌のコピーを取り寄せられる

(1) 満足	435	20%
(2) どちらかといえば満足	304	14%
(3) どちらかといえば不満	67	3%
(4) 不満	38	2%
(5) 利用したことがない	985	46%
(6) この質問で初めて知った	329	15%



c-3 附属図書で開かれるオリエンテーションや文献の探し方などの講習会に参加したことがある

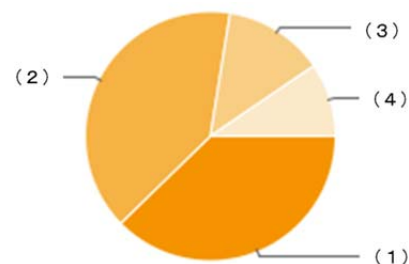
(1) 満足	193	9%
(2) どちらかといえば満足	338	16%
(3) どちらかといえば不満	50	2%
(4) 不満	16	1%
(5) 利用したことがない	1424	66%
(6) この質問で初めて知った	139	6%



1.7 附属図書館全体として提供している非来館型サービスの認知度についてお伺いします。

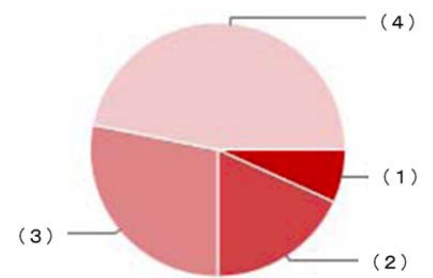
a-1 附属図書館 Web サイト (<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>)

(1) よく利用する	815	38%
(2) たまに利用する	861	40%
(3) 知っているが利用したことはない	280	13%
(4) この質問で初めて知った	206	10%



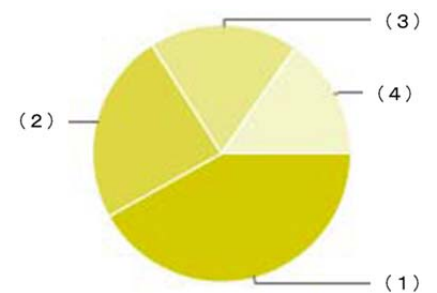
a-2 東京大学の研究成果を見る UT Repository

(1) よく利用する	147	7%
(2) たまに利用する	395	18%
(3) 知っているが利用したことはない	610	28%
(4) この質問で初めて知った	1014	47%



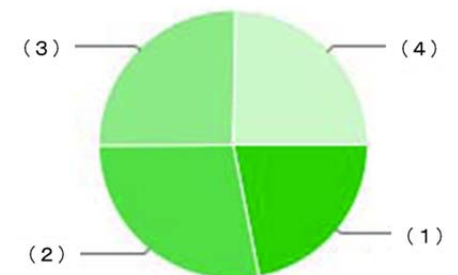
a-3 貸出期間の延長や予約ができる My OPAC

(1) よく利用する	906	42%
(2) たまに利用する	521	24%
(3) 知っているが利用したことはない	406	19%
(4) この質問で初めて知った	332	15%



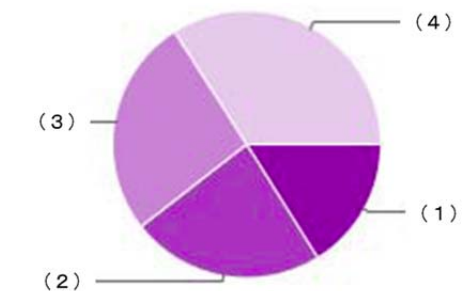
a-4 学術論文を探す UT Article Search

(1) よく利用する	473	22%
(2) たまに利用する	604	28%
(3) 知っているが利用したことはない	548	25%
(4) この質問で初めて知った	533	25%



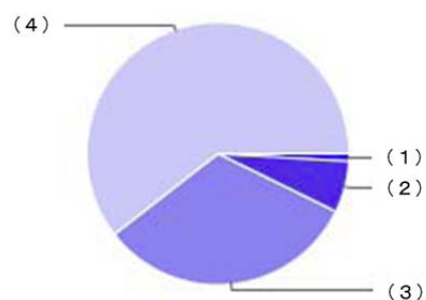
a-5 データベースを探す GACoS

(1) よく利用する	348	16%
(2) たまに利用する	503	23%
(3) 知っているが利用したことはない	572	27%
(4) この質問で初めて知った	734	34%



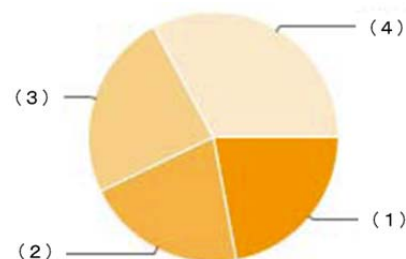
a-6 図書館へ質問する ASK

(1) よく利用する	20	1%
(2) たまに利用する	138	6%
(3) 知っているが利用したことはない	695	32%
(4) この質問で初めて知った	1307	61%



a-7 SSL-VPN サービスを利用した、自宅などキャンパス外からの電子ジャーナルやデータベースへのアクセス

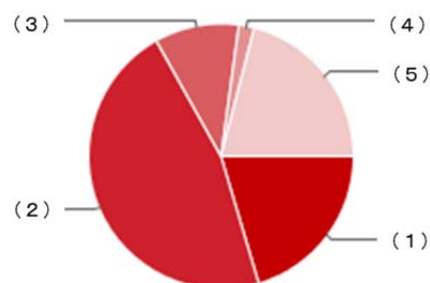
(1) よく利用する	477	22%
(2) たまに利用する	451	21%
(3) 知っているが利用したことはない	524	24%
(4) この質問で初めて知った	711	33%



1.8 附属図書館全体として提供している非来館型サービスの満足度についてお伺いします。

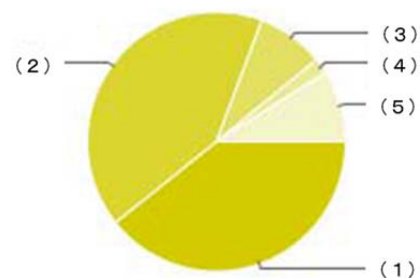
a-1 附属図書館の Web サイト (<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>) では探している情報を簡単に見つけられる

(1) 満足	440	20%
(2) どちらかといえば満足	1002	46%
(3) どちらかといえば不満	222	10%
(4) 不満	41	2%
(5) 利用したことがない	452	21%



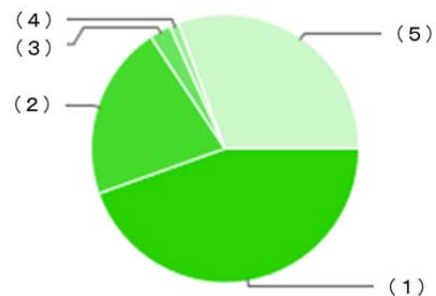
a-2 OPAC (蔵書検索システム) で必要な図書や雑誌を見つけられる

(1) 満足	846	39%
(2) どちらかといえば満足	893	41%
(3) どちらかといえば不満	181	8%
(4) 不満	41	2%
(5) 利用したことがない	194	9%



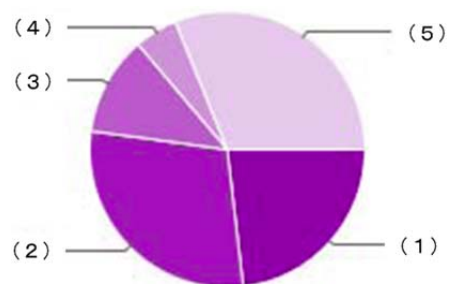
a-3 My OPAC で図書の予約や取り寄せ，貸出期間の延長をする

(1) 満足	959	45%
(2) どちらかといえば満足	453	21%
(3) どちらかといえば不満	56	3%
(4) 不満	24	1%
(5) 利用したことがない	660	31%



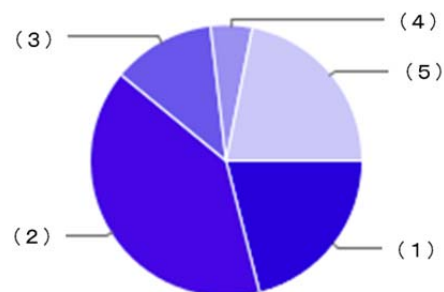
a-4 利用したい電子ジャーナルを自由に読める。

(1) 満足	497	23%
(2) どちらかといえば満足	623	29%
(3) どちらかといえば不満	250	12%
(4) 不満	109	5%
(5) 利用したことがない	669	31%



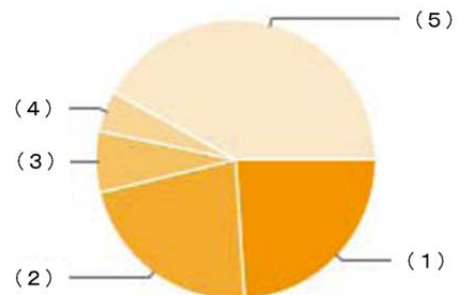
a-5 学習・研究に必要なデータベースが提供されている。

(1) 満足	452	21%
(2) どちらかといえば満足	857	40%
(3) どちらかといえば不満	263	12%
(4) 不満	106	5%
(5) 利用したことがない	470	22%



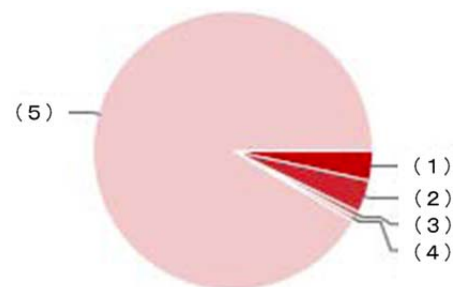
a-6 自宅などキャンパス外からデータベースや電子ジャーナルなどにアクセスできる

(1) 満足	517	24%
(2) どちらかといえば満足	478	22%
(3) どちらかといえば不満	153	7%
(4) 不満	102	5%
(5) 利用したことがない	904	42%



c-1 メールによる質問（ASK）サービスの回答は適切だった

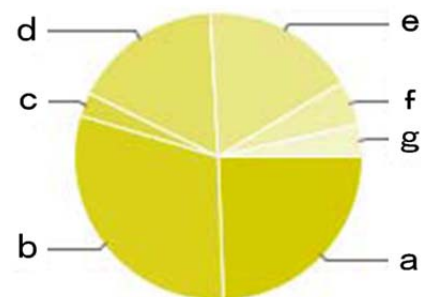
(1) 満足	74	3%
(2) どちらかといえば満足	82	4%
(3) どちらかといえば不満	15	1%
(4) 不満	12	1%
(5) 利用したことがない	1976	92%



2. 今後の附属図書館について

2.1 普段、学習・研究を行っているキャンパスの拠点図書館はどの点に最も力を注ぐべきだと思いますか。

a. 電子ジャーナルなど電子的資料を充実させる	527	24%
b. 図書を充実させる	651	30%
c. (紙の) 雑誌の購読タイトルを増やす	57	3%
d. 学習・研究のためのスペースを充実させる	364	17%
e. 空調、音響など施設環境を改善・向上させる	373	17%
f. ライティング・サポートなど学習・研究に役立つサービスを提供する	107	5%
g その他	78	4%



a. 電子ジャーナルなど電子的資料を充実させる 527 24%

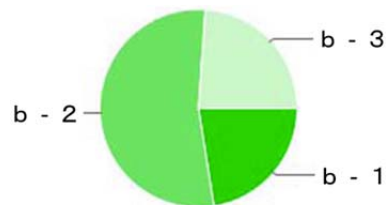
⇒ どのような分野の資料が不足していると思いますか？具体的な資料名があれば併せて記入してください。

(自由記述：【抜粋】(a) ジャーナルに限らず紙媒体のみで利用可能な資料を可能な限り電子化して欲しい (b) 1960年代以前の Nature 誌など、古い文献の電子化を希望します。(c) 日本語の電子ジャーナルがオンライン・ネットで読めること (d) Project Muse などの人文科学系の雑誌は一部しか見られないものがあり、困る場合がある。(e) 学外からのアクセスだと、見れる電子ジャーナル数が限られてくるので、それを増やしてほしい (f) そもそも不満はない。今ある電子ジャーナルの購読を維持してほしいと思う。(g) 「この雑誌、購読して欲しい！」という時にどこに申請するかわからないので、そこをわかりやすくしていただきたい。(h) 自分が見たいと思ったジャーナルにたどり着いたあと、見方が全然分からない。自分の問題なのか契約してないから見られないかよく分からず、不満を感じた。)

b. 図書を充実させる 651 30%

⇒ 拠点図書館はどのような図書を重点的に揃えるべきだとお考えですか？ (b.1 ~b-3 から1つ選択)

- b-1 教科書やシラバスに載っている
参考図書など学習用図書 146 22%
- b-2 大学院以上の専門的な研究用図書 348 54%
- b-3 入門書, 一般教養書 155 24%



c. (紙の) 雑誌の購読タイトルを増やす 57 3%

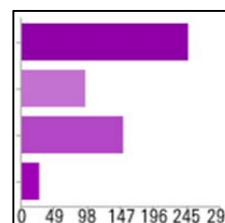
⇒ どのような分野の雑誌が不足していると思いますか？具体的な雑誌があれば併せて記入してください。

(自由記述：【抜粋】(a) 実験の雑誌についても日本語の入門書的なものが少ないと思う。(b) 教育の分野において、バックナンバーの一部が欠けている雑誌があるように感じられる。(c) 日常生活のポピュラーな雑誌は、30年40年経った時に貴重な研究資料となるので、30年後などの資料価値を踏まえて収集保存すべきだと考えています。(d) 政治学系 レヴァイアサンとか、webで読めないもの)

d. 学習・研究のためのスペースを充実させる 364 17%

⇒ 現在、あなたが利用している拠点図書館には何が不足していると思いますか？(複数回答可)

- d-1 個人で集中して利用できる閲覧席 246 48%
- d-2 グループで利用するセミナー室等 94 18%
- d-3 個別のコンセントや無線LANなどの設備 150 29%
- d-4 その他 26 5%



(【抜粋】(a) 休憩するラウンジや自動販売機。広い意

味での「学習・研究スペース」として改善していただきたいです (b) 他の来館者と交流できるようなスペース (c) 開館時間が短い。海外や国内の他大学は24時間利用できる図書館がある。(d) 空調が効かないため、暑くて勉強出来ない。蔵書も的はずれであったり、暑さのために貴重な本にカビが生えるなど、図書館としての機能を全く果たせていない。今年度、空調を強くする前に、飲み物の持ち込みを許可したことについては、その優先基準判断の倫理観を疑う。(e) 閲覧環境や会議室なども重要ですが、個人的には「トイレ」です。利用者のマナーを啓発しつつ、ぜひトイレの充実(数、環境、照明など)にも力を注いでいただきたいです。)

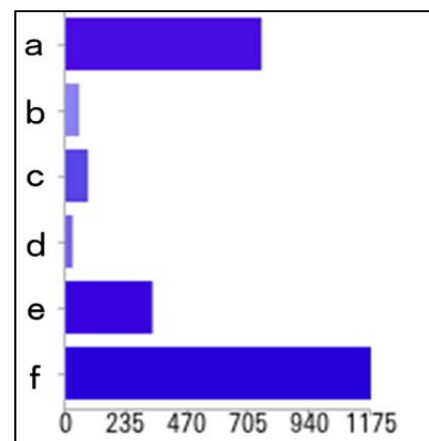
e. 空調, 音響など施設環境を改善・向上させる 373 17%

- f. ライティング・サポートなど学習・研究に役立つサービスを提供する 107 5%
- g. その他 78 4%

【抜粋】(a) 京都大学や大阪大学では試験の時期になると、自習室や図書館を 24 時間解放しているが、東大は夜 10 時までである。また土日の解放時間も短い。学習環境の向上のために、図書館の解放時間を延長して頂きたい。(b) 無線 LAN の安定的接続(c) 本の取り寄せをしたいのだが、社会人なので図書館が開いている時間に間に合わないことが多い。サイトで予約して事務室などに置きができないものか。(d) 必死になって新しいことをしようとせず、今まで通りの図書館業務を無難に続けていればそれでよい。(e) 特に夏期において空調が不十分で暑いこと、本郷の総合図書館にてトイレの臭いと思われる異臭がすることがあることなど、建物内での過ごしやすさを改善して欲しいです。(f) 書庫への入場やコピー機の利用など、何から何まで規則が多すぎる。ICU の図書館は非常に使いやすかった。(g) キャンパスに所属していない少数学生のために、キャンパス（あるいは連携大学院など学生が所属する施設）間のコピー郵送サービスを取り入れて欲しい。オンラインで文献のコピー依頼をしても、結局は部局図書館へ取りに行かなければならないのは非常に不満(h) 各部局の蔵書を一箇所にまとめる。(i) 衛生面、清掃に力を注いでいただけたらと思います。特に閲覧室の机の汚れと、埃が気になります。)

2.2 附属図書館の「新図書館計画」をご存知ですか？（複数回答可）

- a. 本郷キャンパスの総合図書館を大幅に拡充する計画であることを知っている 754 31%
- b. 新図書館計画の Facebook ページを知っている 52 2%
- c. 新図書館計画の Twitter アカウントを知っている 86 4%
- d. 関連イベント(ブックトーク・講演会)に参加したことがある。 27 1%
- e. 「新図書館計画」の存在は知っているが、内容は良く知らない 334 14%
- f. この質問で「新図書館計画」の存在を初めて知った 1175 48%



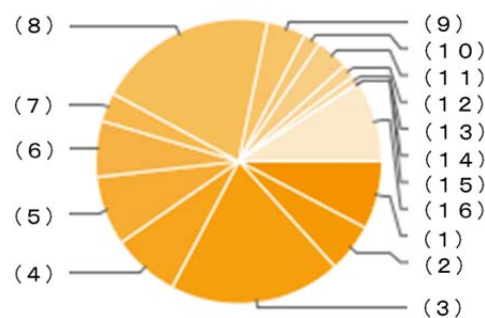
2.3 その他、ご意見・ご要望をご記入ください。(自由記入)

【抜粋】(a) 学修・読書に利用しようとする際に、学期末試験期間中などでは座席がどうしても不足している (b) 一部分だけでも (学習コーナー、PC コーナーのみなど) 24時間営業して頂けると助かります。(c) 駒場図書館、自然科学図書室ともに、利用できる時間が短い。図書館は大学の心臓部と言っても過言ではなく、ほんらいは学生がキャンパスで過ごす時間のうち最も多くの時間を図書館で過ごしているべきだと思うが、開館時間の制約のために、自分の所属する研究室や自宅に移動しなければならない。ただ開館時間を延ばすだけではなくて、購買や食堂、リフレッシュ施設などの拡充を含めた包括的な図書館改革が必要だと思われる。大学はもっと library-oriented な場所であるべきだというのが私見である。特に、寮生活及び一人暮らしを営むものや、大学から自宅までが遠い学生にとって、図書館は学業生活 (学生生活) の拠点であってしかるべきである。新しい図書館とはかくあるべきだと思う。(e) 駒場や本郷の総合図書館に関しては、少なからず法学部生などの自習部屋と化しているのが残念です。雰囲気も良くないのでどうしても足が遠のき、学科附属の図書室使用がメインになってしまいます。(f) 新しい図書館ができるのは非常に良いことだと思うが、全ての図書を基本的に閉架式にするのは良くないと思う。OPAC はキーワード検索なので探したい分野を完全にカバーすることができない。学生は現在総合図書館の書庫に入れるが、この方法だと自分が探していた本以外にも役に立ちそうな本を見つけることがあったりするのなるべく本の開架は続けてほしい。(g) 総合図書館内の空調が悪くて夏は暑く冬は寒いので集中して自習できない。冷暖房を導入して欲しい。二階あたりの悪臭がたまに気になる。(h) 部局附属図書館にその部局の専門といえる書物があまりにも少ない。これでは部局附属とはとうてい言い難い。図書館の役割とは一体何なのか、再考する必要があると考える。

設問はこれで終わりです。最後にご自身についてご回答ください。

所属 *必須

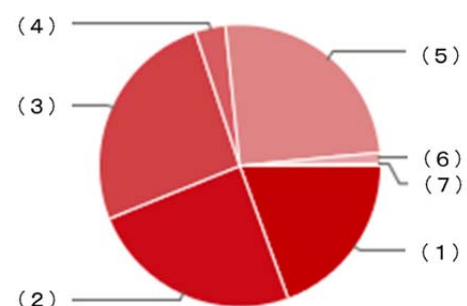
(1) 法学部・法学政治学研究科・法科大学院	168	8%
(2) 医学部・医学系研究科	120	6%
(3) 工学部・工学系研究科・情報理工系研究科	422	19%
(4) 文学部・人文社会系研究科	166	8%
(5) 理学部・理学系研究科・数理科学研究科	171	8%
(6) 農学部・農学生命科学研究科	138	6%
(7) 経済学部・経済学研究科	72	3%
(8) 教養学部・総合文化研究科	441	20%
(9) 教育学部・教育学研究科	96	4%
(10) 薬学部・薬学系研究科	41	2%



(11) 新領域創成科学研究科	81	4%
(12) 情報学環・学際情報学府	33	2%
(13) 公共政策大学院	21	1%
(14) 附置研究所・センター等	1	0%
(15) 附属病院	0	0%
(16) 学内・その他	201	9%

身分

(1) 教養学部前期課程学生	422	19%
(2) 学部学生	531	24%
(3) 大学院生（修士課程）	564	26%
(4) 大学院生（専門職学位課程）	76	3%
(5) 大学院生（博士課程）	546	25%
(6) 研究生・聴講生	27	1%
(7) その他	6	0%

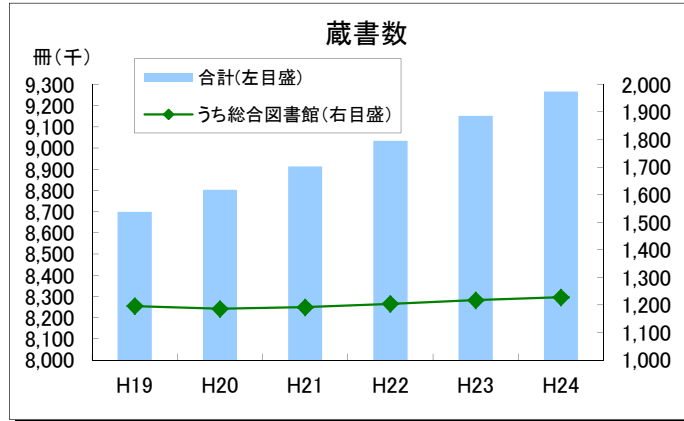


4 基礎統計

蔵書数

	合計	うち総合図書館
平成19年度	8,699,292	1,196,209
平成20年度	8,803,707	1,186,221
平成21年度	8,913,625	1,191,994
平成22年度	9,034,097	1,204,232
平成23年度	9,152,570	1,217,169
平成24年度	9,266,963	1,227,736

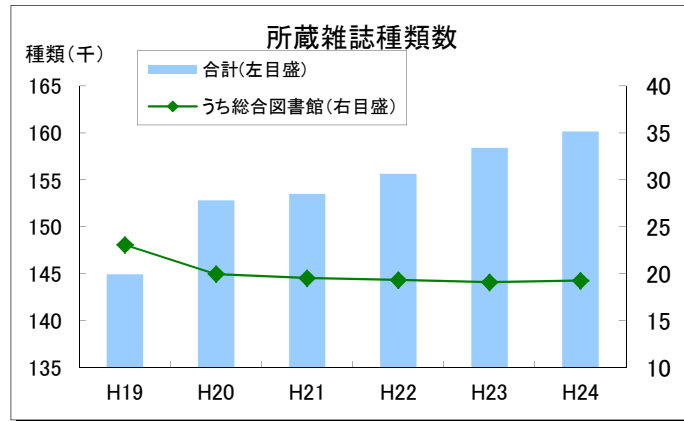
(単位:冊)



所蔵雑誌種類数

	合計	うち総合図書館
平成19年度	144,962	23,074
平成20年度	152,814	19,965
平成21年度	153,523	19,532
平成22年度	155,665	19,319
平成23年度	158,441	19,096
平成24年度	160,184	19,259

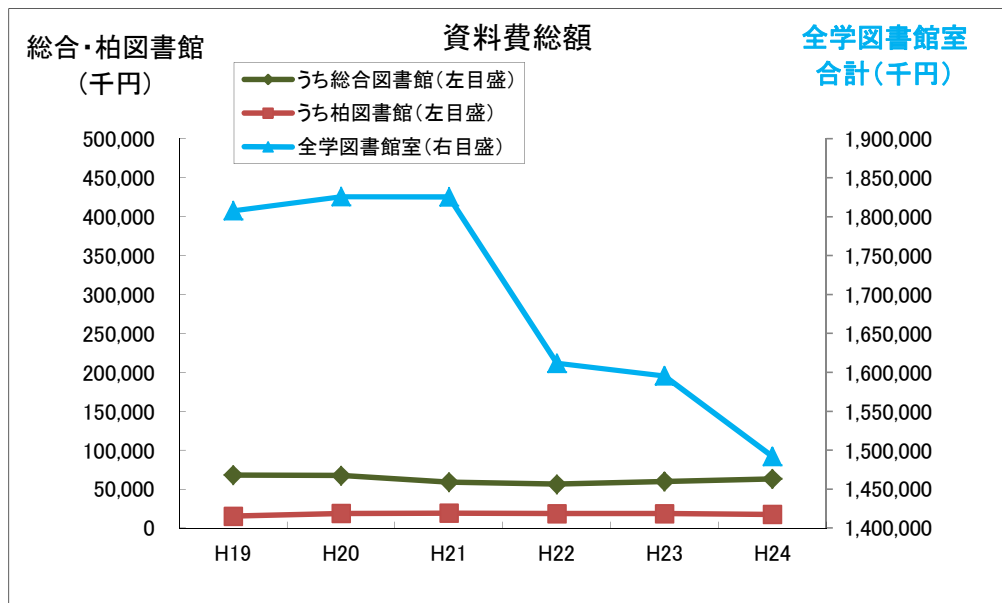
(単位:種類)



資料費総額

	合計	うち総合図書館	うち柏図書館
平成19年度	1,807,784	68,018	15,340
平成20年度	1,825,643	67,511	18,732
平成21年度	1,825,311	59,136	19,236
平成22年度	1,611,786	56,365	18,592
平成23年度	1,595,579	59,973	18,522
平成24年度	1,492,120	63,286	17,507

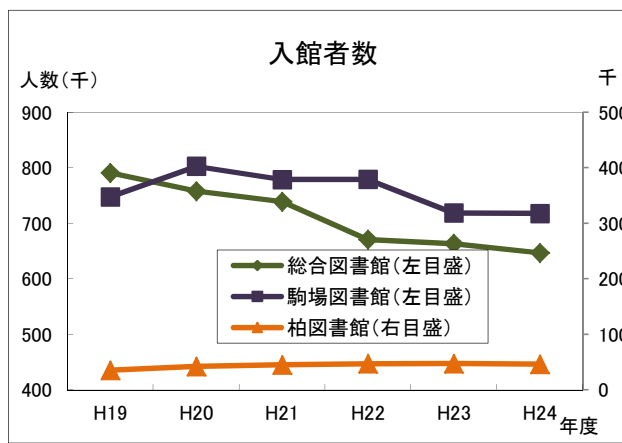
※総合図書館分は全学共通経費を除いた額を計上(単位:千円)



入館者数(延人数)

	総合図書館	駒場図書館	柏図書館
平成19年度	790,767	747,774	35,298
平成20年度	758,100	802,746	42,179
平成21年度	738,943	778,655	44,827
平成22年度	670,768	779,188	46,982
平成23年度	663,288	718,551	47,130
平成24年度	646,679	717,568	46,015

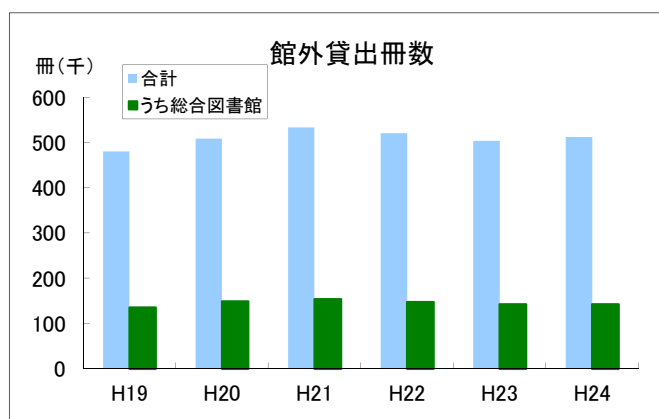
*平成22年度は3月に東日本大震災があった(単位:人)ため、一時閉館した。



館外貸出冊数

	合計	うち総合図書館
平成19年度	480,162	135,712
平成20年度	508,503	148,899
平成21年度	533,411	153,816
平成22年度	520,520	147,650
平成23年度	503,489	142,534
平成24年度	511,905	142,905

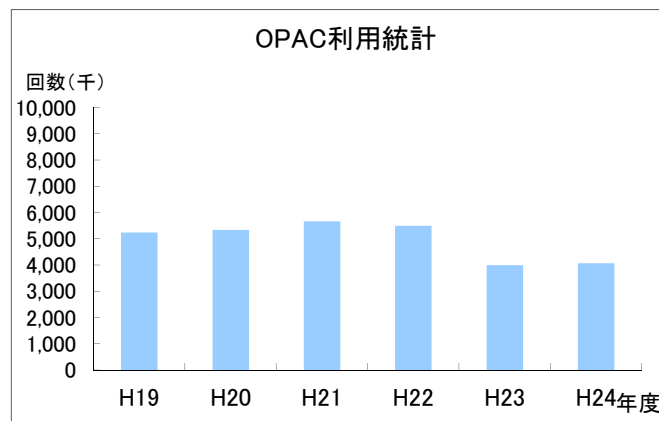
*平成22年度は3月に東日本大震災があったため、一時閉館した。(単位:冊)



東京大学OPAC利用統計 (検索実行回数)

	OPAC
平成19年度	5,242,630
平成20年度	5,335,352
平成21年度	5,671,182
平成22年度	5,494,212
平成23年度	4,003,803
平成24年度	4,075,994

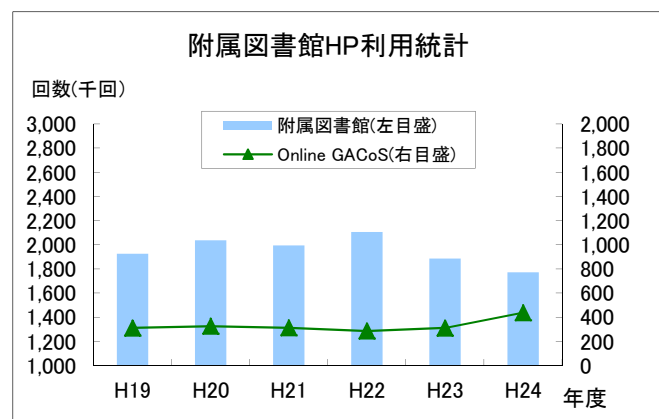
*平成23年度にシステムのリプレイスを行ったため、算定方法が変わった。(単位:回)



附属図書館ホームページ利用統計 (アクセス回数)

	附属図書館	Online GACoS*
平成19年度	1,926,386	310,970
平成20年度	2,038,185	325,872
平成21年度	1,995,797	312,168
平成22年度	2,106,998	286,533
平成23年度	1,888,282	311,156
平成24年度	1,772,462	438,921

(単位:回)

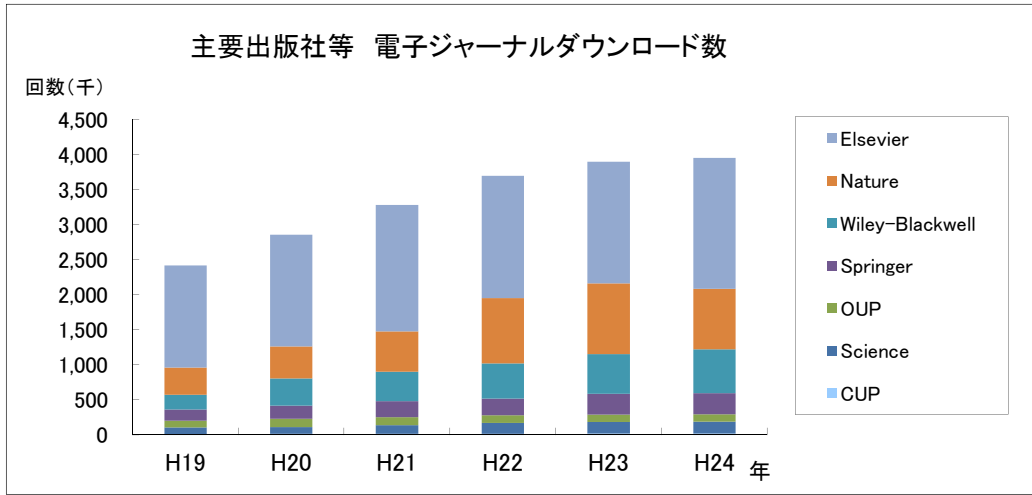


* GACoS ; Gateway to Academic Contents System

電子ジャーナルダウンロード数

	Cambridge University Press (CUP)	Science	Oxford University Press (OUP)	Springer	Wiley-Blackwell	Nature Publishing Group	Elsevier	合計
平成19年	10,427	96,592	94,700	160,083	214,194	387,079	1,458,923	2,421,998
平成20年	15,423	94,910	118,833	189,441	387,199	459,582	1,593,749	2,859,137
平成21年	18,624	119,183	117,045	229,127	421,090	574,910	1,803,173	3,283,152
平成22年	17,099	156,677	109,335	234,091	504,531	933,414	1,745,480	3,700,627
平成23年	20,333	165,814	102,586	297,638	568,980	1,006,459	1,740,651	3,902,461
平成24年	22,672	169,543	101,256	302,375	627,020	863,822	1,870,426	3,957,114

(単位:回)



平成20年度東京大学附属図書館統計表（職員数、蔵書数、蔵書数、利用件数）

平成21年3月31日現在

	職員数		蔵書数				資料費		図書				受入資料数				相互利用			
	常勤 (人)	非常勤 (人)	図書		逐次刊行物		総額 (千円)	和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)	内購入 (冊)	館外貸出 (冊)	受付 (件)	依頼 (件)			
			和書	洋書	合計	和文												欧文	合計	内購入
			(冊)	(冊)	(冊)	(種)												(種)	(種)	(種)
大学院法学政治学研究所・法学部研究室	13	6	246,290	468,377	714,667	1,515	2,024	3,539	73,146	5,287	5,955	11,242	9,669	740	1,247	1,987	1,457	0	578	301
近代日本法政史料センター	1	2	55,090	802	55,892	7,432	30	7,462	4,502	130	3	133	10	244	1	245	45	0	435	0
医学図書館	10	6	110,801	167,604	278,405	3,331	2,342	5,673	20,158	2,067	2,635	4,702	847	785	622	1,407	775	11,751	4,050	3,257
工学・情報理工学図書館	13	15	152,842	247,999	400,841	3,476	3,578	7,054	17,296	2,788	1,921	4,709	3,968	1,300	844	2,144	1,354	27,368	948	739
大学院人文社会科学系研究所・文学部図書館	8	15	481,673	526,959	1,008,232	6,305	4,013	10,318	91,241	9,255	7,404	16,659	11,178	401	1,221	1,622	1,378	17,701	1,206	1,256
大学院理学系研究所・理学部図書館	7	9	38,375	191,672	230,047	2,149	4,931	7,080	11,988	861	3,141	4,002	731	837	1,246	2,083	620	10,476	404	232
農学生命科学図書館	12	5	224,160	159,119	383,279	6,321	5,380	11,701	61,188	2,193	968	3,161	1,358	1,865	1,653	3,518	1,747	12,517	3,694	919
経済学部図書館	11	10	441,898	313,700	755,598	10,987	4,645	15,632	38,690	6,583	3,042	9,625	4,294	690	468	1,158	560	35,353	336	239
駒場図書館 (総合文化研究所図書館・自然科学図書館を含む)	16	23	506,323	486,118	992,441	1,645	3,348	4,993	69,035	10,084	7,925	18,009	10,196	886	1,604	2,490	1,887	160,788	1,022	2,548
アメリカ太平洋地域研究センター	3	3	6,637	63,270	69,907	145	969	1,114	9,147	398	877	1,275	889	74	77	151	74	3,113	0	0
大学院教育学研究所・教育学部図書館	4	3	76,188	56,785	132,973	3,178	1,061	4,239	6,091	6,582	914	7,476	1,160	713	304	1,017	466	14,914	878	668
薬学図書館	2	1	10,086	30,779	40,865	200	343	543	730	136	586	722	66	67	90	157	102	1,643	227	449
大学院数理科学研究科図書館	3	3	13,385	120,295	133,680	154	1,518	1,672	19,611	192	2,161	2,353	988	36	594	630	357	7,885	285	28
大学院情報学環・学際情報学部図書館	3	4	68,298	53,237	121,535	1,396	1,362	2,758	5,002	1,102	453	1,555	508	238	150	388	226	6,313	579	232
社会情報研究資料センター			13,261	4,831	18,092	0	0	0	11,867	1,170	112	1,282	432	0	0	0	0	0	0	0
医科学研究所図書館	2	1	4,379	41,364	45,743	322	964	1,286	2,837	41	631	672	672	16	113	129	104	501	247	273
地震研究所図書館	2	2	18,967	31,994	50,961	1,057	1,032	2,089	2,273	206	412	618	64	440	224	664	149	1,249	184	18
東洋文化研究所図書館	6	6	483,467	175,941	659,408	2,581	3,862	6,443	32,323	5,435	3,897	9,332	7,598	487	823	1,310	630	40	234	32
社会科学研究所図書館	11	0	197,135	135,155	332,290	4,862	2,761	7,623	23,706	2,773	1,609	4,382	3,270	929	385	1,314	662	4,706	28	36
生産技術研究所図書館	3	0	62,296	100,281	162,577	1,142	1,502	2,644	4,276	347	472	819	139	436	199	635	200	704	193	590
史料編纂所図書館	9	9	494,197	14,760	508,957	2,682	212	2,894	3,470	3,270	138	3,408	511	1,179	37	1,216	100	0	0	9
宇宙線研究所図書館	0	1	874	21,280	22,154	21	214	235	3,317	16	466	482	482	14	62	76	70	178	9	6
物性研究所図書館	2	1	6,446	57,156	63,602	104	630	734	11,950	638	931	1,569	812	44	107	151	133	3,731	189	49
海洋研究所図書館	1	2	17,673	35,986	53,659	1,467	1,800	3,267	1,718	6,703	2,546	9,249	50	398	333	731	191	699	553	311
情報基盤センター情報資料室	1	0	4,897	4,169	9,066	63	88	151	372	0	0	0	0	8	13	21	21	9	0	0
総合研究博物館図書室	1	1	4,420	2,127	6,547	2,590	698	3,288	0	497	13	510	0	439	110	549	0	0	6	0
アイントーブ総合センター図書室	0	2	29	269	298	42	40	82	112	14	2	16	5	21	5	26	2	38	0	2
先端科学技術研究センター図書室	1	2	16,045	30,477	46,522	69	412	481	1,667	10	37	47	43	21	3	24	24	579	18	271
部局図書館(室) 計	145	132	3,756,132	3,542,106	7,298,238	65,236	49,759	114,995	527,713	68,758	49,251	118,009	59,940	13,308	12,535	25,843	13,334	322,256	16,303	12,465
総合図書館 全学共通経費	42	15	788,503	417,718	1,186,221	11,107	8,858	19,965	67,981	12,464	5,084	17,548	9,774	3,128	835	3,963	304	148,899	1,688	183
柏図書館	5	2	67,025	252,223	319,248	4,280	13,574	17,854	18,732	27,658	15,431	43,089	3,356	16	6	22	19	37,348	700	782
総計	192	149	4,591,660	4,212,047	8,803,707	80,623	72,191	152,814	1,825,643	108,890	69,786	178,646	73,070	16,452	13,376	29,828	13,657	508,503	18,691	13,430

(社)日本図書館協会大学図書館調査より

平成21年度東京大学附属図書館統計表（職員数、蔵書数、蔵書数、利用件数）

平成22年3月31日現在

	職員数		蔵書数						資料費		受入資料数						館外貸出		相互利用				
	常勤 (人)	非常勤 (人)	図書			逐次刊行物			総額 (千円)	図書			逐次刊行物			(冊)	(件)	(件)	(件)				
			和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)		和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)					(冊)	(種)	(冊)	(種)
大学院法学政治学研究所・法学部研究室	13	6	251,455	474,238	725,693	1,518	2,041	3,559	78,348	5,696	6,102	11,798	9,462	728	1,251	1,979	1,457	0	687	237			
近代日本法政史料センター	1	2	55,291	802	56,093	7,474	31	7,505	1,880	201	0	201	5	99	1	100	42	0	638	0			
医学図書館	10	5	111,986	168,592	280,578	3,271	2,350	5,621	23,146	1,955	2,479	4,434	3,938	789	622	1,411	778	14,309	6,634	2,811			
工学・情報理工学図書館	13	15	151,931	243,287	395,218	3,667	3,584	7,251	16,703	2,309	2,277	4,586	3,894	1,200	881	2,081	1,295	29,006	1,043	585			
大学院人文社会科学系研究科・文学部図書館	8	16	491,664	534,197	1,025,861	7,938	4,318	12,256	88,287	10,077	7,823	17,900	7,469	420	1,089	1,509	1,261	17,845	1,426	1,085			
大学院理学系研究科・理学部図書館	6	10	39,319	193,427	232,746	2,069	4,830	6,899	13,024	1,005	2,433	3,438	758	833	1,201	2,034	603	9,590	336	130			
農学生命科学図書館	13	5	224,368	164,105	388,473	6,321	5,444	11,765	52,909	1,235	5,798	7,033	1,217	1,844	1,654	3,498	1,730	15,752	4,929	591			
経済学部図書館	11	11	447,529	316,215	763,744	10,988	4,696	15,684	38,689	5,668	2,540	8,208	3,947	672	462	1,134	560	34,392	379	165			
駒場図書館 (総合文化研究科図書館・自然科学図書館を含む)	16	22	521,603	495,308	1,016,911	1,685	3,491	5,176	129,818	15,280	9,190	24,470	10,530	867	1,498	2,365	1,749	173,660	964	1,792			
アメリカ太平洋地域研究センター	3	3	6,825	63,754	70,579	146	988	1,134	4,676	188	484	672	469	70	82	152	74	2,505	0	0			
大学院教育学研究科・教育学部図書館	3	4	77,562	60,300	137,862	3,300	1,063	4,363	7,062	1,955	3,681	5,636	1,029	753	297	1,050	474	15,309	828	590			
薬学図書館	2	1	10,250	31,340	41,590	200	343	543	1,483	164	561	725	67	64	89	153	101	1,781	260	320			
大学院数理学研究科図書館	2	3	13,634	122,251	135,885	149	1,522	1,671	22,127	249	1,956	2,205	990	33	593	626	360	8,192	341	42			
大学院情報学環・学際情報学部図書館	3	4	68,665	53,633	122,298	1,397	1,367	2,764	5,469	367	396	763	564	239	145	384	217	6,512	613	201			
社会情報研究資料センター			13,284	4,932	18,216	0	0	0	11,923	23	101	124	124	0	0	0	0	0	0	0			
医科学研究所図書館	2	1	4,220	36,769	40,989	326	964	1,290	4,671	19	403	422	421	20	110	130	103	329	221	258			
地震研究所図書館	2	1	19,110	32,409	51,519	1,058	1,035	2,093	2,962	167	444	611	64	279	223	502	163	1,069	160	23			
東洋文化研究所図書館	5	6	483,492	178,192	661,684	2,578	4,177	6,755	25,084	5,758	2,265	8,023	4,646	486	849	1,335	648	153	493	35			
社会科学研究所図書館	10	0	200,140	136,574	336,714	4,897	2,776	7,673	24,109	3,005	1,419	4,424	3,532	787	381	1,168	614	5,261	70	103			
生産技術研究所図書館	3	0	62,822	100,794	163,616	1,131	1,492	2,623	3,526	526	513	1,039	123	425	189	614	189	622	132	373			
史料編纂所図書館	7	9	496,966	14,873	511,839	2,709	212	2,921	13,846	2,769	113	2,882	633	1,206	36	1,242	107	0	38	9			
宇宙線研究所図書館	0	1	905	21,712	22,617	21	214	235	2,695	31	432	463	423	14	62	76	70	230	11	1			
物性研究所図書館	2	1	5,876	56,727	62,603	105	633	738	10,905	395	1,069	1,464	704	43	107	150	133	4,290	171	26			
海洋研究所図書館	1	2	20,859	37,661	58,520	1,532	1,284	2,816	1,687	3,382	2,202	5,584	51	268	525	793	191	644	461	156			
情報基盤センター情報資料室	1	0	4,897	4,169	9,066	63	88	151	390	0	0	0	0	8	13	21	21	1	0	0			
総合研究博物館図書館	1	1	4,942	2,146	7,088	615	260	875	0	522	19	541	0	450	114	564	0	0	11	11			
アイントープ総合センター図書館	0	2	29	269	298	49	55	104	307	0	0	0	0	37	6	43	2	46	0	0			
先端科学技術研究センター図書館	1	2	16,117	30,233	46,350	70	411	481	1,585	79	74	153	63	21	26	47	40	516	30	223			
部局図書館(室) 計	139	133	3,805,741	3,578,909	7,384,650	65,277	49,669	114,946	587,311	63,025	54,774	117,799	55,123	12,855	12,506	25,161	12,982	342,014	20,876	9,767			
総合図書館	42	12	767,215	424,779	1,191,994	10,838	8,694	19,532	1,218,764	11,246	2,419	13,665	7,729	3,070	834	3,904	298	153,816	1,465	147			
柏図書館	5	3	76,308	260,673	336,981	4,813	14,232	19,045	19,236	9,293	8,466	17,759	4,225	16	7	23	19	37,581	705	631			
総計	186	148	4,649,264	4,264,361	8,913,625	80,928	72,595	153,523	1,825,311	83,564	65,659	149,223	67,077	15,741	13,347	29,088	13,299	533,411	23,046	10,545			

(社)日本図書館協会大学図書館調査より

平成22年度東京大学附属図書館統計表（職員数，蔵書数，蔵書数，利用件数）

	職員数		蔵書数						資料費		受入資料数						館外貸出		相互利用		
	常勤 (人)	非常勤 (人)	図書			逐次刊行物			総額 (千円)	図書			逐次刊行物			(冊)	(件)	(件)	(件)		
			和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)		和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	(内購入)	和文 (種)	欧文 (種)					合計 (種)	(内購入)
大学院法学政治学研究所・法学部研究室	13	7	256,018	480,669	736,687	1,537	2,045	3,582	61,504	4,630	6,547	11,177	7,814	736	1,240	1,976	1,445	0	391	95	
近代日本法政史料センター	1	2	55,711	802	56,513	7,487	31	7,518	2,325	29	0	29	0	42	0	42	9	0	455	0	
医学図書館	12	5	114,091	171,452	285,543	3,295	2,355	5,650	19,907	2,105	2,860	4,965	4,297	788	610	1,398	778	11,514	7,220	2,220	
工学・情報理工学図書館	13	15	161,463	249,020	410,483	3,724	3,525	7,249	16,348	2,368	2,087	4,455	4,149	1,139	853	1,992	1,284	29,815	1,001	401	
大学院人文社会科学系研究所・文学部図書館	7	18	500,868	543,540	1,044,408	7,975	4,327	12,302	70,486	9,487	10,142	19,629	6,343	463	1,075	1,538	1,253	17,320	1,823	1,004	
大学院理学系研究所・理学部図書館	6	9	39,626	186,062	225,688	2,123	4,694	6,817	12,998	715	2,316	3,031	794	770	1,003	1,773	555	9,200	352	87	
農学生命科学図書館	13	5	228,431	167,216	395,647	6,387	5,463	11,850	56,217	3,960	3,139	7,099	1,578	1,547	1,710	3,257	1,776	17,312	5,848	394	
経済学部図書館	12	10	457,208	318,750	775,958	11,048	4,729	15,777	37,528	10,128	2,578	12,706	4,328	662	467	1,129	560	31,553	387	395	
駒場図書館・大学院総合文化研究科図書館・自然	16	25	531,861	503,864	1,035,725	2,223	3,653	5,876	58,229	10,258	8,556	18,814	10,530	650	1,338	1,988	1,746	170,837	1,014	1,647	
グローバル地域研究機構	3	2	6,915	63,930	70,845	146	988	1,134	2,679	90	176	266	279	60	103	163	86	1,423	0	0	
大学院教育学研究所・教育学部図書館	4	4	80,013	61,665	141,678	3,343	1,069	4,412	5,286	2,451	1,365	3,816	826	734	290	1,024	468	15,389	850	650	
薬学図書館	2	1	10,754	31,689	42,443	203	343	546	2,245	504	349	853	261	65	89	154	99	1,814	418	200	
大学院数理学研究科図書館	2	3	13,772	124,330	138,102	146	1,524	1,670	16,997	138	2,079	2,217	887	33	599	632	363	8,567	237	22	
大学院情報学環・学際情報学部図書館	3	4	69,240	54,061	123,301	1,399	1,369	2,768	5,646	575	428	1,003	768	235	147	382	215	6,020	766	138	
社会情報研究資料センター			13,261	4,831	18,092	0	0	0	11,756	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医科学研究所図書館	2	1	4,224	36,848	41,072	325	961	1,286	2,917	13	249	262	262	19	110	129	102	215	313	300	
地震研究所図書館	2	1	19,069	33,125	52,194	1,062	1,036	2,098	2,311	343	338	681	69	286	221	507	162	1,021	145	22	
東洋文化研究所図書館	6	5	486,424	179,614	666,038	2,543	4,293	6,836	14,860	3,213	1,698	4,911	3,432	482	851	1,333	646	144	429	72	
社会科学研究所図書館	9	0	203,220	137,785	341,005	5,091	2,958	8,049	18,474	3,080	1,211	4,291	3,370	891	389	1,280	650	12,513	156	73	
生産技術研究所図書館	2	0	59,384	98,012	157,396	1,191	1,686	2,877	2,561	354	574	928	698	399	141	540	156	679	119	231	
史料編纂所図書館	7	9	500,290	15,049	515,339	2,768	213	2,981	7,474	3,324	176	3,500	1,052	1,265	37	1,302	111	0	193	28	
宇宙線研究所図書館	0	1	913	22,078	22,991	21	214	235	2,080	8	373	381	375	14	62	76	70	200	24	1	
物性研究所図書館	2	1	6,237	57,532	63,769	105	634	739	10,031	530	925	1,455	769	42	106	148	131	4,176	205	33	
大気海洋研究所図書館	1	2	22,357	38,345	60,702	1,552	1,185	2,737	2,039	1,694	1,211	2,905	72	417	361	778	195	795	368	196	
総合研究博物館図書館	1	1	5,481	2,158	7,639	720	270	990	0	539	12	551	0	482	140	622	0	0	9	15	
先端科学技術研究センター図書館	1	2	16,250	30,244	46,494	69	413	482	1,586	44	11	55	55	18	24	42	35	385	15	172	
部局図書館(室)計	140	133	3,863,081	3,612,671	7,475,752	66,483	49,978	116,461	44,484	60,580	49,400	109,980	53,008	12,239	11,966	24,205	12,895	340,892	22,738	8,396	
総合図書館	39	11	782,316	421,916	1,204,232	10,675	8,644	19,319	1,148,710	10,500	2,580	13,080	7,942	2,932	789	3,721	298	147,650	1,465	200	
柏図書館	5	2	87,216	266,897	354,113	5,285	14,600	19,885	18,592	7,229	4,622	11,851	3,795	15	15	30	18	31,978	694	272	
総計	184	146	4,732,613	4,301,484	9,034,097	82,443	73,222	155,665	1,611,786	78,309	56,602	134,911	64,745	15,186	12,770	27,956	13,211	520,520	24,897	8,868	

(社)日本図書館協会の調査による

平成23年度東京大学附属図書館統計表（職員数、蔵書数、蔵書数、利用件数）

平成24年3月31日現在

	職員数		蔵書数						資料費		受入資料数						相互利用			
	常勤 (人)	非常勤 (人)	図書			逐次刊行物			総額 (千円)	和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	(内購入)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)	(内購入)	館外貸出 (冊)	依頼	
			和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)											受付 (件)	依頼 (件)
大学院法学政治学研究所・法学部研究室	13	6	259,819	484,993	744,812	2,147	3,669	5,816	53,372	3,801	4,661	8,462	7,473	696	1,249	1,945	1,424	0	440	291
近代日本法政史料センター	1	2	56,323	803	57,126	7,531	31	7,562	1,272	38	1	39	6	108	0	108	18	0	543	0
医学図書館	10	6	114,761	172,232	286,993	3,287	2,347	5,634	22,675	1,882	1,859	3,741	863	747	575	1,322	773	12,579	9,141	2,010
工学・情報理工学図書館	13	15	159,252	241,117	400,369	4,153	3,546	7,699	13,034	2,323	2,748	5,071	3,845	1,146	854	2,000	1,299	32,998	963	431
大学院人文社会科学系研究所・文学部図書室	7	15	509,064	555,690	1,064,754	8,243	4,479	12,722	72,615	8,452	12,773	21,225	6,881	482	1,049	1,531	1,216	15,270	1,036	786
大学院理学系研究所・理学部図書室	6	8	40,380	189,145	229,525	1,626	3,361	4,987	10,448	770	3,487	4,257	713	471	449	920	433	9,481	350	107
農学生命科学図書館	10	5	234,182	167,731	401,913	6,422	5,482	11,904	53,714	8,668	1,788	10,456	1,718	1,513	1,520	3,033	1,663	16,304	5,647	361
経済学部図書館	11	8	479,238	321,280	800,518	11,118	4,498	15,616	36,776	22,622	2,540	25,162	3,819	653	465	1,118	554	25,036	453	152
駒場図書館・大学院総合文化研究科図書館・自然	15	26	542,634	510,885	1,053,519	2,257	3,906	6,163	56,892	10,773	7,021	17,794	10,508	727	1,238	1,965	1,633	167,077	1,092	1,261
グローバル地域研究機構	1	2	7,130	64,771	71,901	142	974	1,116	2,827	215	841	1,056	362	68	72	140	72	1,744	0	0
大学院教育学研究所・教育学部図書室	3	3	81,205	62,619	143,824	3,383	1,067	4,450	5,190	1,192	954	2,146	741	742	286	1,028	467	14,082	703	668
薬学図書館	2	1	10,872	32,482	43,354	203	344	547	2,364	319	592	911	269	64	87	151	97	1,895	495	225
大学院数理学研究科図書室	2	3	13,983	126,576	140,559	146	1,526	1,672	18,409	211	2,246	2,457	1,068	33	587	620	359	8,754	204	17
大学院情報学環・学際情報学府図書室	2	3	69,589	54,351	123,940	1,399	1,369	2,768	4,915	349	290	639	511	235	147	382	215	5,835	763	158
社会情報研究資料センター	2	3	13,261	4,962	18,223	0	0	0	11,063	0	131	131	131	0	0	0	0	0	0	0
医科学研究所図書室	2	1	4,245	37,076	41,321	325	960	1,285	1,533	21	228	249	243	19	109	128	101	239	446	354
地震研究所図書室	2	1	19,447	33,492	52,939	1,071	1,039	2,110	2,242	378	367	745	71	285	215	500	160	843	184	13
東洋文化研究所図書室	6	5	488,945	181,392	670,337	2,550	4,598	7,148	11,663	3,202	1,903	5,105	3,407	480	838	1,318	626	148	366	89
社会科学研究所図書室	9	0	205,428	138,803	344,231	5,040	2,956	7,996	14,261	2,208	1,018	3,226	2,573	840	387	1,227	625	11,317	223	39
生産技術研究所図書室	2	0	59,656	94,456	154,112	1,193	1,482	2,675	2,494	281	306	587	545	366	170	536	160	561	126	347
史料編纂所図書室	7	9	504,941	15,288	520,229	2,613	298	2,911	8,905	4,651	239	4,890	1,356	1,289	40	1,329	108	0	155	18
宇宙線研究所図書室	0	1	957	22,502	23,459	21	214	235	2,154	44	424	468	377	12	62	74	70	123	34	4
物性研究所図書室	2	1	6,263	58,416	64,679	105	634	739	9,235	498	866	1,364	574	39	103	142	126	3,587	174	23
大気海洋研究所図書室	1	2	22,937	38,659	61,596	1,602	1,197	2,799	2,041	663	661	1,324	74	439	357	796	218	721	323	62
総合研究博物館図書室	0	1	5,481	2,158	7,639	1,097	400	1,497	0	339	12	351	0	340	140	480	0	0	6	11
先端科学技術研究所センター図書室	1	2	16,719	30,348	47,067	81	433	514	2,175	469	104	573	196	18	23	41	34	365	24	91
部局図書館(室) 計	128	126	3,926,712	3,642,227	7,568,939	67,755	50,810	118,565	422,269	74,369	48,060	122,429	48,324	11,812	11,022	22,834	12,451	328,959	23,891	7,518
総合図書館	39	14	783,337	423,832	1,217,169	10,497	8,599	19,096	1,154,788	11,153	2,017	13,170	7,684	2,860	711	3,571	294	142,534	1,617	206
柏図書館	6	2	92,713	273,749	366,462	5,683	15,097	20,780	18,522	10,006	26,727	36,733	3,447	11	19	30	17	31,996	1,064	480
総計	173	142	4,812,762	4,339,808	9,152,570	83,935	74,506	158,441	1,595,579	95,528	76,804	172,332	59,455	14,683	11,752	26,435	12,762	503,489	26,572	8,204

(注) 日本図書館協会大学図書館調査より (非常勤職員数は附属図書館職員名簿より)

平成24年度東京大学附属図書館統計表（職員数，蔵書数，蔵書数，利用件数）

	職員数		蔵書数						資料費		受入資料数						相互利用			
	常勤 (人)	非常勤 (人)	図書			逐次刊行物			総額 (千円)	図書			逐次刊行物			館外貸出 (冊)	依頼			
			和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)		和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	(内購入)	和文 (種)	欧文 (種)		合計 (種)	(冊)	(件)	(件)
大学院法学政治学研究所・法学部研究室	12	6	263,691	495,196	758,887	2,174	3,695	5,869	64,774	3,880	11,072	14,952	5,011	731	1,180	1,911	1,396	0	518	254
近代日本法政史センター	1	2	56,827	803	57,630	7,593	31	7,624	141	31	0	31	0	124	0	124	5	0	856	0
医学図書館	10	7	115,929	173,837	289,766	3,021	2,187	5,208	16,794	1,379	2,200	3,579	1,129	723	282	1,005	493	11,361	9,201	1,686
工学・情報理工学図書館	13	13	159,674	240,645	400,319	4,470	3,654	8,124	11,897	2,114	1,743	3,857	3,448	1,117	640	1,757	1,085	32,731	836	474
大学院人文社会科学系研究所・文学部図書館	6	18	519,902	563,211	1,083,113	8,409	4,508	12,917	70,037	10,923	7,904	18,827	6,247	506	988	1,494	1,159	15,604	997	1,008
大学院理学系研究所・理学部図書館	6	8	42,142	189,145	231,287	1,663	3,427	5,090	18,878	687	2,499	3,186	664	429	369	798	345	9,419	368	116
農学生命科学図書館	12	5	237,235	167,181	404,416	6,422	5,452	11,874	48,281	4,405	1,412	5,817	1,539	1,526	1,377	2,903	1,491	16,920	4,563	233
経済学部図書館	11	10	488,961	324,199	813,160	11,095	4,584	15,679	42,350	10,197	3,131	13,328	4,039	645	484	1,109	555	25,764	327	173
駒場図書館・大学院総合文化研究科図書館・自然	16	23	553,541	516,105	1,069,646	2,342	4,054	6,396	52,732	10,430	5,697	16,127	9,680	756	1,164	1,920	1,515	172,060	846	1,151
グローバル地域研究機構	1	2	7,343	65,335	72,678	143	974	1,117	3,505	193	584	777	515	66	75	141	70	1,929	0	0
大学院教育学研究所・教育学部図書館	4	3	84,710	63,773	148,483	3,401	1,082	4,483	8,936	3,505	1,154	4,659	2,184	637	221	858	390	14,966	740	609
薬学図書館	2	1	11,290	32,099	43,389	407	465	872	7,779	418	1,458	1,876	235	113	50	163	62	2,417	638	117
大学院数理学研究科図書館	2	3	14,253	128,753	143,006	131	1,563	1,694	30,711	313	2,255	2,568	1,198	31	589	620	362	8,431	203	11
大学院情報学環・学際情報学府図書館	2	4	69,738	54,558	124,296	1,399	1,369	2,768	3,029	149	207	356	247	199	97	296	161	5,656	536	128
社会情報研究資料センター			13,261	4,962	18,223	0	0	0	7,102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医科学研究所図書館	2	1	4,270	37,251	41,521	325	892	1,217	307	25	175	200	194	19	41	60	33	32	300	393
地震研究所図書館	2	1	19,796	33,963	53,759	1,037	976	2,013	1,582	327	484	811	71	265	194	459	158	1,139	140	12
東洋文化研究所図書館	6	5	492,690	183,707	676,397	2,593	5,630	8,223	12,309	3,745	2,315	6,060	2,823	479	831	1,310	621	161	423	50
社会科学研究所図書館	8	0	204,950	138,312	343,262	4,996	2,966	7,962	13,375	3,717	1,243	4,960	3,174	854	369	1,223	617	10,923	198	199
生産技術研究所図書館	2	0	58,839	94,717	153,556	995	1,538	2,533	1,527	158	51	209	209	366	170	536	160	1,081	65	232
史料編纂所図書館	6	10	509,668	15,424	525,092	2,675	295	2,970	7,094	4,727	136	4,863	1,007	1,326	42	1,368	108	0	265	20
宇宙線研究所図書館	0	1	965	22,890	23,855	21	214	235	6,954	8	388	396	385	12	62	74	70	104	16	23
物性研究所図書館	2	1	6,280	59,281	65,561	94	637	731	8,915	226	903	1,129	457	37	96	133	121	4,118	153	21
大気海洋研究所図書館	1	3	23,948	40,547	64,495	1,620	1,205	2,825	8,010	1,011	1,888	2,899	102	404	347	751	173	698	268	53
総合研究博物館図書館	0	2	3,853	2,169	6,022	336	114	450	0	526	15	541	0	305	110	415	0	0	4	9
先端科学技術研究センター図書館	1	2	16,876	30,228	47,104	77	413	490	2,183	271	77	348	202	16	8	24	17	640	11	54
部局図書館(室) 計	128	131	3,980,632	3,678,291	7,658,923	67,439	51,925	119,364	449,202	63,365	49,991	112,356	44,760	11,886	9,766	21,452	11,167	336,154	22,472	7,026
総合図書館	40	13	801,856	425,880	1,227,736	10,722	8,537	19,259	1,025,411	8,895	2,169	11,064	6,602	2,761	605	3,366	271	142,905	1,922	162
柏図書館	5	1	99,212	281,092	380,304	6,182	15,379	21,561	17,507	5,905	5,444	11,349	3,293	13	17	30	19	32,846	1,050	201
総計	173	145	4,881,700	4,385,263	9,266,963	84,343	75,841	160,184	1,492,120	78,165	56,604	134,769	54,655	14,460	10,388	24,848	11,457	511,905	25,444	7,389

(社)日本図書館協会大学図書館調査より
(非常勤職員数は附属図書館職員名簿より・平成25年4月18日現在)